

平成 2 0 年 度

研 究 紀 要

(通卷第 2 6 号)



川 越 市 教 育 委 員 会

あ い さ つ

川越市教育委員会教育長

川越市教育委員会では、平成20年度川越市教育行政の方針と重点に基づき、次代を担う児童生徒を育成するために、教育研究所を中心として教職員の資質能力の向上を図っております。

本年度も、各研究委員会を設置し、市内各校で直接指導にあたっている先生方の協力を得て調査・研究を進め、その成果を「研究紀要通巻第26号」として発刊することとなりました。

「情報教育推進委員会」では、今日、進展する情報化に生きる子どもたちの情報活用能力の育成を目指して、教室の情報化と情報モラル教育の推進について、小学校での公開授業や情報モラル教育の指導計画の作成及び実践事例など先進的かつ具体的な取組を進めてまいりました。「学力調査研究委員会」では、これまでの研究を踏まえ、子どもたちの学力向上に向け、特に課題の見られる内容項目について、指導方法の工夫・改善の具体的な手立ての研究を続けてまいりました。「教育に関する3つの達成目標推進研究委員会」では、昨年度作成したCDの活用方法について、小・中学校の連携を軸とした具体的実践について追究してまいりました。「小学校英語活動研究委員会」では、平成21年度から先行実施する小学校5・6年生英語活動の年間指導計画及び毎時間の指導計画を作成し、各学校の英語活動の充実はもとより、円滑な実施に向けて研究を進めてまいりました。

これらの研究成果につきましては、各学校で積極的に御活用され、次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成を目指して、日々の教育活動の充実・改善に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、川越市教育委員会の諸事業に御協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

目

次

情報教育推進委員会

1	はじめに	1
2	研究の概要	1
3	教室の情報化部会 公開授業 学習指導案 研究協議のまとめ	1
4	情報モラル推進部会 年間指導計画 (小学校) 年間指導計画 (中学校) 指導事例	9
5	おわりに	19

学力調査研究委員会

1	研究の概要	20
2	各教科の総括		
(1)	国語科	21
(2)	社会科	23
(3)	算数・数学科	25
(4)	理科	27
(5)	英語科	29

教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

1	研究の概要	31
2	各部会の取組		
(1)	読む・書く部会	32
(2)	計算部会	39
(3)	体力部会	43
(4)	規律ある態度部会	47

小学校外国語活動研究委員会

1	研究の概要	51
2	研究の取組		
(1)	英語活動年間指導計画 (小学校5学年)	52
(2)	英語活動年間指導計画 (小学校6学年)	53
(3)	英語活動指導計画例 (小学校5学年)	54
(4)	英語活動指導計画例 (小学校6学年)	56

情報教育推進委員会

1 はじめに

今日、急速な社会の情報化の進展に伴い、学校教育においてICT（情報技術 Information and Communication Technology）を様々な場面で活用し、児童生徒の情報活用能力の適切な育成が求められている。また、学習指導要領の改訂により、情報教育や授業におけるICT活用など、「教育の情報化」の一層の充実が図られることとなっている。

ICTの効果的な活用は、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や校務の情報化による教員の事務負担の軽減等を通じた子どもたちと向き合う時間の確保など、学校教育の充実として期待されている。さらに、高度情報通信ネットワーク社会の発展に伴う情報化の影の部分に対して、子どもたちが他人への影響を考えて行動することやインターネット上の違法・有害情報等に適切に対応できるようにすることなどのいわゆる情報モラル教育の一層の充実が求められている。

本年度、川越市情報教育推進委員会では、全市立小・中学校の情報教育の一層の推進を目指して、児童生徒の学力の向上や情報活用能力の育成を図るための「教育の情報化」について、今日的課題解決に向けて実践研究を進めてきた。

学校では、コンピュータやインターネットに加えて、プロジェクタ、デジタルカメラ、プレゼンテーションソフトなどが、国語、社会、算数・数学、理科、外国語、総合的な学習の時間など多くの教科等で幅広く活用できる。これらの教科等において、コンピュータ教室のみならず普通教室での活用を推進する必要がある。そこで、教室の情報化部会では、ICTを活用した教室での授業を公開し、各学校において情報機器の活用を推進する際に直接役に立てたいと考えた。

また、情報モラル教育推進部会では、喫緊の課題である「情報モラル教育」について発達段階を考慮したモデルカリキュラムを策定し、各学校での情報モラル教育の推進に生かせるようにしたいと考えた。

2 研究の概要

- ・第1回 平成20年 7月15日(火) 教育研究所
委嘱書交付、川越市情報教育の現状と課題、今年度の方針、今後の予定
- ・第2回 平成20年 8月 4日(月) 霞ヶ関北小学校
霞ヶ関北小学校の取組(校内LANの活用)
具体的な情報モラル教育等の取組について
- ・第3回 平成20年 8月28日(木) 教育研究所
教室の情報化部会 学習指導案検討
情報モラル教育推進部会 情報モラル教育モデルカリキュラムの検討
- ・第4回 平成20年11月26日(水) 霞ヶ関北小学校
公開授業及び研究協議
教科名 理科
単元名 第5学年「わたしたちの气象台」
授業者 川越市立霞ヶ関北小学校 秋元 俊哉 教諭
- ・第5回 平成21年 1月16日(金) 教育研究所
推進委員会のまとめと今後の方針

3 研究の内容

【教室の情報化部会】

(1) 公開授業及び研究協議

日時 平成20年11月26日(水)
会場 川越市立霞ヶ関北小学校
教科名 理科
単元名 第5学年「わたしたちの气象台」
授業者 川越市立霞ヶ関北小学校 秋元 俊哉 教諭

第5学年1組 理科学習指導案

平成20年 11月 26日(水) 5時間目

1 単元名 「わたしたちの气象台」

2 単元について

(1) 児童の実態

理科に関する意識調査から、7割が好意的であり、「実験や観察が好き」という理由が一番多く、実験や観察を楽しんでいるのが分かる。また、「新しいことを知ることができる」や「自然をもっと知りたい」という前向きな意見もあった。これに対して、3割ほどが理科の授業について好意的ではない。「難しい」や「意味がわからない」という意見が多く、高学年になるにつれ、ただ単におもしろいだけでは好きになれないことが分かる。

このことから、高学年の理科の授業では、現象を説明する時に理由を明確にするなど、「事実に基づいた論理的な説明」をできることがとても重要になってくる。本単元では、はじめに、興味関心を高めるために、分かりやすい教材の提示や話し合いの場作りをしていきたいと考える。次に、理由を明確にできるようにするために、問題理解の補助や友だちとの話し合いの場を設定などをしていく。さらに、解決の方法を自ら発見し、自ら解決していくことで、達成感を持たせたいと考え、一人一人への個別の支援や援助をおこなう。

理科に関する意識調査	思う	少し思う	あまり思わない	思わない
理科は好きか	39%	32%	16%	13%

(2) 教材について

4年生の「ものの温度とかさ」「もののあたたまり方」「水のすがた」を通して、物質の温度による変化と水の変化についての学習をおこなってきた。水の変化を知っていることが、本単元の学習に大きく関わってくる。

本単元では、天気によるあたたかさの違いを知る活動を通して、1日の中であたたかさがどのように変化していくのかを調べる。その際、天気によって1日の気温の変化に差があることから、天気の変化に興味・関心を持って取り組めるようにする。

また、天気の変化を調べる際に、新聞やインターネットなども活用して計画的に情報収集をすることもねらいとした。

単元構成としては、初めに同じ季節でも、天気によって、日中のあたたかさが違うことから、天気と気温の関係に目を向け、天気の違いによる気温の変化をとらえることができるようにした。次に、数日間の天気の変化を調べ、その規則性をとらえるとともに、天気を予想することができるようにした。

(3) 本単元で育てたい資質・能力

天気については、日常生活でよく見たり聞いたりする内容である。一見知っているようであるが、天気の変り方などや用語についてとなると、理解できていないことが多い。

そこで、実際に空を観察しながら、一日の雲の動きを調べ、天気の変化と雲の量や動きが関係していることをとらえさせ、興味・関心を持たせる。気象に関する用語などについての学習も深める。

そして、天気の情報新聞やテレビ、インターネットなどから情報を収集させ、観察したことと関連付けながら、天気の変化がどのように変わっていくのかをとらえる活動をさせる。天気の変化は、雲に着目すればいいことを充分理解させる。

このような学習を通して、雲の量や動きは、天気の変化と関係があることや、天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることが理解できるようにしたい。

(4) 系統性

4年

温度とものの変化

みんなで使う理科室
ものの温度とかさ
ものあたたまり方
水のすがた

5年

天気の変化

台風と気象情報
わたしたちの气象台

中学校

第2分野

大地の変化
天気とその変化
地球と宇宙
自然と人間

3 情報機器の利用について

情報機器の活用の有効性は高い。新学習指導要領の第5学年B生命・地球(4)天気の変化の中で、「身近な自然現象としての雲を観察することにより、気象現象に興味・関心をもち、天気を予想することができるようにする。その際、テレビや新聞、インターネットから得られる気象情報を活用することが考えられる。」と記され、情報機器の活用を促している。また、指導計画の作成と内容の取扱いでも、「観察、実験などの指導に当たっては、直接体験が基本であるが、適宜コンピュータや視聴覚機器などを組み合わせ、活用することによって学習の一層の充実を図ることができる。」と明記されており、情報機器の活用による学習への効果が期待されている。

情報機器等を的確に使うことができる教員も増えてきているが、全ての教員がコンピュータを使った授業ができるわけではない。また、コンピュータ活用の現状として、コンピュータ室で使うことが中心となっている。コンピュータをより多くの教員に使ってもらうためには、以前のOHPのように教室等色々な場で活用できることを知らせる必要があると考える。

そこで、本時は、コンピュータの教室での活用という視点に立って授業を考えた。5年生の理科の「わたしたちの气象台」では、継続した観察から得た情報を利用して、天気の様子を推測していくのに、観察だけでは限界がある。そこで、コンピュータの特性を生かし、映像をアニメーション化して見ることができれば、子どもたちが、天気の変化について理解しやすいのではないかと考えた。その際、プロジェクタを使用し、教室で情報機器をOHP的に利用することを試みることにした。

4 単元の目標

※単元の内容(学習指導要領解説 理科編 第5学年より)

C-(f) 1日の天気の様子を観測したり、映像などの情報を活用したりして、天気の変り方を調べ、天気の変化の仕方について考えをもつようにする。

ア 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。

イ 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。

【自然事象への関心・意欲・態度】

1日の気温の変化や天気の変化などを、観察や情報集めを通して調べようとする。

【科学的な思考】

天気は気象情報などを使って予想することができるという見方や考え方を持つことができる。

【観察・実験の技能・表現】

晴れや曇り、雨の日に、1日の気温の変化を測定し、天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを調べることができる。

【自然事象についての知識・理解】

天候により1日の気温の変化に違いがあることや、天気は気象情報などを使って予想することができることを理解できる。

5 指導計画・評価計画

時数	学 習 活 動	観 点 別 達 成 目 標 (評価規準)
1	わたしたちの气象台 ○晴れや雨など、天気によってどんな違いがあるのか考えてみよう。	(関) 1日の天気の様子や気温について、調べようとする。
2	天気による1日の気温の変化 (1) 晴れや曇り、雨の日では、それぞれ1日に気温の変化に、違いがあるのだろうか。	(思) 1日の気温の変化の仕方は、天気によって違いのあると考えることができる。
3	観察1 1日の気温の変化	(技) 温度計を使うなどして、天気や1日の気温の変化のしかたを調べ、測定した気温などを記録しまとめることができる。
4	(2) 1日の気温の変化には、どんな違いが見られるのだろうか。	(技) 天気によって、1日の気温の変化のしかたに違いがあることがわかる。
5	このごろの天気の変化 (1) 天気は、毎日、どのように変化していくのだろうか。	(関) 天気に関する情報を集めて、自分の地域の天気の変化を調べようとする。
6	資料調べ 天気調べ	(技) 気象情報を活用して、天気の変化の様子を調べ、まとめることができる。
7 本時	(2) 天気の変化の仕方には、どんなきまりがあるのだろうか。	(知) 天気は、およそ西から東へ変化していくことがわかる。
8	明日の天気を予想しよう (1) わたしたちにも、明日の天気を予想することができるのだろうか。	(思) 天気の変化のしかたには規則性があるので、気象情報や地域の言い伝えをもとに予想することができる。
	資料調べ 天気の予想	(技) 天気の変化を予想するための情報を集めたり、天気と日常生活との関わりを調べたりすることができる。
9	まとめ 学習したことをまとめよう	まとめの視点 今まで調べてきたことを利用して、天気の予想をしたり、天気の変化する様子について、自分なりの考えを持ってまとめることができているか。

6 本時の学習指導 (7/9時間)

(1) 本時で重視する資質・能力

- ・天気図の変化や雲の動きを通して、天気がどのように変化していくかとらえることができる力

(2) 目標

【自然事象についての知識・理解】

天気は、およそ西から東へ変化していることが理解できる。

評価規準

- ・天気が西から東に変わっていくことをまとめることができる。

(3) 展開

学 習 活 動	教師の働きかけと予想される児童の活動	◇留意点・◆評価(評価方法)	時
1 本時の学習課題を知る。	<p>○前時の学習を想起する。</p> <p>川越の天気はどのように変化していたのでしょうか。</p> <p>「明日の天気の予想」(気象予報)をしよう。天気予報はどのようにしておこなうのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気図を利用して ・雲の様子をみて <p>○課題を提示する。</p> <p>これからの天気をどう予想するか。</p>	<p>◇天気の変わり方を調べるための目標を明確にし意欲を高める。</p>	7
<p>天気の変化の仕方には、どのようなきまりがあるのだろうか。</p>			
2 学習の進め方を知る。	<p>○課題解決の方法を確かめる。</p> <p>何を使って調べてみるとわかるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気図を使う。 ・天気の一覧表を見る。 <p>天気や天気図の変わり方を調べてみることで、どのように天気が変わるのか予想できますね。</p>	<p>◇天気の変化については、予想が難しい児童もいるので、何を使ってどのように調べるか、解決のための手順の確かめをする。</p>	8

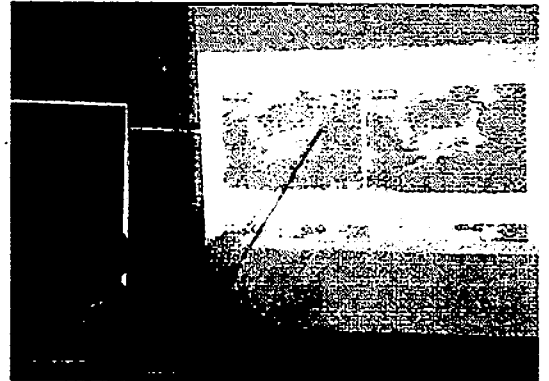
<p>3 天気の変化の仕方を調べる。</p>	<p>○資料を使って調べる。 資料をもとに、天気の変化の決まりを見つけてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴天の中の曇りの動きでわかる。 ・雨へと変わっていく様子でわかる。 ・雲の動きを見ることでわかる。 	<p>◇自分で情報を用意できないなかったり、資料が十分でないかったりした児童のために天気図（6日間）、雲の動き（6日間）、雨雲の動きの変わり方（6時間）をまとめたプリントを用意する。</p> <p>◇わからない時は、ヒントの入ったプリントを使い変化については雲の動き、雨域の移動などに注目することで、天気の変わり方に気がつくことを教える。</p>	<p>10</p>
<p>4 天気の変化の仕方について話し合う。</p>	<p>○天気の変化について話し合いをおこなう。 天気の変化についてわかったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気は、雲の動きや雨の区域の変わり方から、西から東に変化していく。 	<p>◇発表に必要なものを用意する。（デジカメ、コンピュータ、プロジェクター）</p> <p>◆資料を使って自分の考えを相手の伝えることができたか。（技） ＜発表の仕方・内容＞</p>	<p>15</p>
<p>5 学習のまとめをする。</p>	<p>○課題についてのまとめをおこなう。 「天気は、およそ西から東へ変化している。」</p>	<p>◇理解が十分でない時は、コンピュータの雲の動きや雨雲の動き動画を使って天気の変化の様子をとらえさせる。</p>	<p>5</p>
<p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○次時の学習内容を伝える。 今度の時間、今日の学習の天気の変化の仕方を通して、「明日の天気予想」してみよう。</p>	<p>◇次時への関心を高め、意欲付けをおこなう。</p>	

研究協議のまとめ

①「普通教室でICT機器を適切に活用して『わかる授業』を展開できたか」

(成果)

- ・プロジェクタによる資料提示で、子どもたちの興味・関心が高まった。
- ・子どもたちが「雲の動き」を視覚的にとらえ、理解を深めることができていた。
- ・子どもたちが発表を行う際、プロジェクタ投影画面を用いてわかりやすい説明ができていた。
- ・学習内容をまとめる際、プロジェクタ投影の大きな画面を用いたことで子どもたちの集中が図られた。
- ・ICT機器が十分に整備されていて、さらにコンピュータ専門の指導員*がいることで、授業がスムーズに展開されていた。結果として、子どもたちの活動の幅が広がっていた。



*霞ヶ関北小学校に導入されているベネッセコーポレーション製品「スクールイントラパック（ネットワーク共同学習型ソフトウェア）」には、専属ICT活用サポーターの定期訪問が付属しています。平成20年度の場合、霞ヶ関北小学校には毎月2日間訪問し、授業の支援・情報機器の整備・教職員への研修などを行いました。

(課題)

- ・「雲の動き」という視点からは、映像（動画）情報の活用も考えられた。情報機器の特徴を生かした活用の工夫が必要である。
- ・実際に空を観察した結果から得た情報とICT機器を活用した気象衛星からの情報とを関連付けながら学習することによって、一層の学習効果が期待できる。
- ・「すべての内容でいつもICT機器を活用する」のではなく、「効果的な活用の場面や方法」について継続して検証していく必要がある。

② 霞ヶ関北小学校の情報教育について

- ・校内無線LANは、教職員用の日報や特別教室の利用簿などの情報交換に利用されている。また、子どもたちは各教室において、コンピュータで学級日誌を作成している。
- ・子どもたちの個人データを一台のサーバーで保存するようにしている。次年度への更新作業の効率化を図っている。
- ・白いスクリーンがなくても、プレゼンテーションの際に白文字を利用することによって、黒板のまままで写すことができる。この方法によって、普通教室でのプロジェクタ利用を推進している。



③ 各学校の情報教育について

- ・「授業の準備に時間がかかる」「利用方法や接続方法がわからない」などの理由から、なかなか情報機器の利用が広がらない。
- プロジェクタの活用により学習効果があがる。「コンピュータ本体、プロジェクタ、コード類」を一つにまとめてワゴンにセットしておくなど、先生方が使いやすい環境をつくるのが大切である。



④ 指導・講評

- ・情報教育機器の整備については、予算・管理など様々な点ですぐに改善していくのは厳しい。各学校・先生方の創意工夫によって、今あるものを上手に活用して、より効果的に利用していくことを考えていくことが大切である。
- ・授業者にとっての都合ではなく、子どもにとってどう便利なのか、どんな利点があるのかを考えて活用していくべきである。
- ・今後さらに情報化が進む社会を生きていく子どもたちや保護者に対し、情報モラルに関する指導をしっかりと行うべきである。
- ・職員室内の情報化を進め、できるだけ校務の軽減化・効率化を進めていく必要がある。同時に情報セキュリティの確保にも努めることが大切である。

【情報モラル教育推進部会】

(1) モデルカリキュラム

情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」である。具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解することなどがあげられる。

そのためには、児童生徒の「道徳的実践力」や「情報活用の実践力」を踏まえ、系統的・計画的に情報モラル教育の推進を図ることが重要である。指導にあたっては、ここに示したモデルカリキュラムを参考にして、各学校の実態に応じて指導事項や指導内容、指導場면을位置づけ、学校教育の様々な場面で実施することが求められる。

小学校情報モラル指導カリキュラム(例)

低学年…道徳教育を中心に日常生活における道徳的実践の指導を通して、情報モラルの基盤を確実に身に付けさせる。

中学年…実践的な情報機器等の操作活動を通しその利便性と楽しさとともに、危険性にも気付かせ、日常生活のモラルと対比させながら情報モラルの意味を理解させる。

高学年…情報機器の活用を通し、情報機器の持つ特性について知り、道徳的な視点から情報機器等を利用する際の情報モラルの意味や重要性について理解させる。

1年生の重点目標

- ・みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。
- ・健康に気をつけ、規則正しい生活をする態度を育てる。
- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生活しようとする態度を育てる。
- ・自分や友だちの作品を大切に扱う態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
情報施設・機器の活用・約束・マナー	<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータ室の使い方と約束 コンピュータでできること コンピュータ室での約束 ■コンピュータの使い方と約束 大人と一緒に使う 大人の許可を得て使う 	生活	
	<ul style="list-style-type: none"> ■図書室の使い方と約束 図書室でできること(本を読む・調べる・学習する) 図書の閲覧のしかた、借り方、返し方 図書室での約束 	生活	
健康上の問題	<ul style="list-style-type: none"> ■テレビやマンガの見方 番組やマンガの選び方 テレビやマンガの世界と現実世界 生活リズム・目の疲労について 	生活 学級活動 道徳	・道徳1-(1) 規則正しい生活
インターネットの活用と安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■個人情報大切に 名前、住所、電話番号を簡単に教えない 自分の持ち物、作品には名前を記入 	生活 学級活動	
情報収集・加工・発信	<ul style="list-style-type: none"> ■手紙を書く 相手のことを考えて丁寧に手紙を書く 手紙の書き方の約束を知る 	国語	・国語 「てがみをかこう」
	<ul style="list-style-type: none"> ■正確な情報発信 嘘をついたりごまかしたりしない 	道徳	・道徳1-(4) 正直な心
著作権・肖像権・個人情報等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■物を大切に 人の作ったものを大切に みんなが使うものを大切に 	道徳	・道徳4-(1) 約束やきまり

2年生の重点目標

- ・みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。
- ・健康に気を付け、規則正しい生活をする態度を育てる。
- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生活しようとする態度を育てる。
- ・自分や友だちの作品を大切に扱う態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
情報施設・機器の活用・約束・マナー	<ul style="list-style-type: none"> ■情報機器・メディアの使い方と約束 図書館の扱い方と約束 コンピュータの使い方と約束 テレビ・音響機器の使い方と約束 	国語 生活	・国語「本と友だちになろう」
健康上の問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ゲーム機の使い方 仮想世界と現実世界の違い ゲームの選び方・気分転換のしかた 生活リズム・目の疲労について 	生活 学級活動 道徳	・道徳1-(1)規則正しい生活
インターネットの活用と安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■個人情報とはなにか 住所・氏名・電話番号 テストの点数から朝食の中身まで 	生活	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ウェブサイトの活用 大人と一緒に見る 不適切なサイトを見つけた時の対応 	生活	・事例で学ぶNetモラルA-01(※)
情報収集・加工・発信	<ul style="list-style-type: none"> ■正確な情報発信 嘘をついたりごまかしたりしない 	道徳	・道徳1-(4)素直な心
著作権・肖像権・個人情報等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■著作物への配慮 著作物とはなにか 著作物を大切にする 	生活	

3年生の重点目標

- ・みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。
- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生活しようとする態度を育てる。
- ・自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
情報施設・機器の活用・約束・マナー	<ul style="list-style-type: none"> ■情報機器の活用と健康 コンピュータでできること(ネットワーク) コンピュータの利点・問題点 生活リズム・健康 	総合	
	<ul style="list-style-type: none"> ■デジタルカメラの活用とマナー デジタルカメラのメリット・デメリット 撮影時のマナー 肖像権への配慮 	総合	・事例で学ぶNetモラルC-01(※)
インターネットの活用と安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットの活用(1) インターネットでできること (プロフ、掲示板、電子メール等) 世界中とつながるインターネット IDとパスワードの役割(他人に教えない) 情報を鵜呑みにしない 	総合	・事例で学ぶNetモラルA-03(※)
情報収集・加工・発信	<ul style="list-style-type: none"> ■文字によるコミュニケーション 文字だけで自分の気持ちを伝える難しさ 	国語 総合	・事例で学ぶNetモラルB-01(※)
	<ul style="list-style-type: none"> ■正確な情報発信 嘘をついたりごまかしたりしない うわさ話をしない 	道徳 総合	・道徳1-(4)正直な明るい心
著作権・肖像権・個人情報等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■著作権への配慮 著作権とはなにか 人の作品のまねをしない 人の作品の一部を利用する場合は許可を得る 	総合	・事例で学ぶNetモラルC-02(※)

4年生の重点目標

- ・みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。
- ・健康に気をつけ、規則正しい生活をする態度を育てる。
- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生活しようとする態度を育てる。
- ・自分や友だちの作品を大切に扱う態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
インターネットの活用と安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットの活用(2) 検索・百科事典・地図サイトの活用 不特定多数・見えない相手 なりすまし 個人情報をもやみに発信しない 	総合	・事例で学ぶNetモラルA-04(※)
情報収集・加工・発信	<ul style="list-style-type: none"> ■掲示板の活用とマナー 掲示板の利点と問題点 不特定多数・見えない相手 匿名性の利点と危険性 個人情報をもやみに発信しない 	総合 道徳	・事例で学ぶNetモラルB-02(※) ・道徳4-(1)公德心
	<ul style="list-style-type: none"> ■正確な情報を見分ける 嘘をつかない 嘘やうわさ話にまどわされない 嘘やうわさ話の見分け方 	道徳 総合	・道徳1-(4) 正直な明るい心
著作権・肖像権・個人情報等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■著作権、肖像権への配慮 著作物の引用のしかた (参考文献・引用文献の明記) 	総合	・事例で学ぶNetモラルC-03(※)

5年生の重点目標

- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・情報の信頼性を見分けるとともに、自分が発信する情報に責任を持つ態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
インターネットの活用と安全性	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットの危険性(1) ダウンロードの危険性 ウイルス・スパイウェア 個人情報流出の原因 	総合	・事例で学ぶNetモラルA-05(※)
	<ul style="list-style-type: none"> ■電子メールの落とし穴(1) 匿名性の利点と危険性 ウィルスメール なりすまし 信頼できないメールは開かない 	総合	
情報収集・加工・発信	<ul style="list-style-type: none"> ■電子メールの活用とマナー 電子メールの利便性と問題点 電子メールと手紙の類似点・相違点 電子メールの書き方・発信のしかた 迷惑メールにならないために 	国語 総合	・国語「お願いの手紙、お礼の手紙」 ・事例で学ぶNetモラルB-03(※)
	<ul style="list-style-type: none"> ■責任ある情報発信 嘘やデマ、あやふやな情報は発信しない 著作権上問題のある情報は発信しない 自分と異なる意見を尊重する 	総合	・事例で学ぶNetモラルB-04(※) ・道徳1-(3)責任のある行動

6年生の重点目標

- ・インターネットの危険性について知り、安全に利用する態度を育てる。
- ・情報の信頼性を見分けるとともに、自分が発信する情報に責任を持つ態度を育てる。

項目	指導内容	教科等	参考
インターネットの活用と安全性	■インターネットの危険性(2) 有容サイト(アダルト・出会い系・違法・詐欺・架空・暴力等)を見つけ時の対処法 ネットショッピング・オークションは子どもだけで行わない	総合	・事例で学ぶNetモラルB-07、B-08(※)
	■携帯電話の活用とルール・マナー 携帯電話の罠・トラブル(架空請求・ネットいじめ・プロフィールサイト) 公共の場所でのマナー(携帯電話を使ってはいけない場面) 撮影のマナー	総合 道徳	・事例で学ぶNetモラルA-06(※) ・道徳4-(1)公徳心
	■電子メールの落とし穴(2) チェーンメール・デマメール 広告メール・スパムメール 架空請求・詐欺メール 迷惑メールへの対処	総合	・事例で学ぶNetモラルB-08(※)
	■情報化社会の落とし穴 携帯電話中毒・ネット依存症 生活リズム・健康	体育 総合 道徳	・保健「病気の予防」 ・事例で学ぶNetモラルC-04(※) ・道徳1-(1)節度のある生活
情報収集・加工・発信	■責任ある情報発信 情報の広がり方 情報の影響 情報発信者の社会的責任	総合 道徳	・事例で学ぶNetモラルB-05(※) ・道徳1-(3)責任のある行動

※コンピュータ用ソフトウェア「事例で学ぶ Net モラル」は、各小学校（一部を除く）に導入しています。教育研究所に、同じ内容が収録されたDVD・ビデオ・掛図があり、各学校に貸し出しをしています。コンピュータのない教室での授業や学年一斉授業など、様々な場所や形態での指導が可能です。

参考

情報モラル教育に関するおもなコンテンツ

- ・“情報モラル”授業サポートセンター（文部科学省）
<http://sweb.nctd.go.jp/support/>
- ・情報モラル指導セミナー「5分でわかる情報モラル」（文部科学省）
http://sweb.nctd.go.jp/5min_moral/
- ・「情報モラル教育」指導資料（埼玉県教育委員会）
http://www2.spec.ed.jp/shiryo/inf_moral/

情報モラルを学べるおもなデジタルコンテンツ

- ・ネット社会の歩き方（財団法人コンピュータ教育開発センター）
http://www.ccc.or.jp/net_walk/
- ・インターネットを利用するルールとマナー集（財団法人インターネット協会）
<http://www.iajapan.org/rule/>
- ・コピーライト・ワールド（社団法人著作権情報センター）
<http://www.kidscric.com/>
- ・キッズ・パトロール（警察庁）
<http://www.cyberpolice.go.jp/kids/>

中学校情報モラル指導カリキュラム(例)

情報機器を主体的に選択し活用する活動や、情報モラルに関する様々なトラブル事例を通し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考えさせ、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を身に付けさせる。

※指導項目を10にした例である。各学校の実態に応じて、さらに細分化することが考えられる。生徒や学校等の実態に応じて、年間にわたり、また3年間を見通した重点的指導や項目間の関連を密にした指導を行うこともできる。

学年	項目 指導目標 ○指導内容	教科等	
1年	<p>ネットワーク上のエチケット インターネット上におけるエチケットの必要性を理解し、エチケットを尊重する態度を育てる。</p> <p>○情報通信ネットワークの発達した経緯に関連付けてとらえること ○迷惑メール等を科学的視点^{※1}から理解し、適切に対処できること ○インターネットや携帯電話を利用する際のエチケットについて考えを深めること ※1 価値のないデータの送受信により、回線に無駄な負荷が発生する等</p>	<p>・技術・家庭 ・道徳 ・総合的な学習の時間</p>	
	<p>情報の信頼性と有害情報 Webページなどによる情報収集においては、目的意識をもって自分に必要な情報を主体的に探し出し、ほかの情報と比較しながら信頼性と妥当性を常に見極められる態度を育てる。</p> <p>○有害情報へのアクセスによってトラブルに巻き込まれる可能性があることについて関連付けてとらえること ○有害情報を識別してアクセスを自制することができること</p>		<p>・社会 ・技術・家庭 ・総合的な学習の時間</p>
	<p>肖像権 肖像権について正しく理解し、権利を侵害しないように情報を適切に扱う態度を育てる。</p> <p>○写真や似顔絵等の取扱いは、プライバシーと関連付けてとらえること ○有名人の写真や絵等が経済的利益をもたらしたり、価値(パブリシティ権)を持つことについて知ること</p>		
2年	<p>ネットワーク犯罪 インターネットを利用した犯罪の例を通して、その特徴について理解し、犯罪に巻き込まれないための能力と態度を育てる。</p> <p>○インターネット上で行われた犯罪も、現実社会での犯罪行為と同様に罰せられることを理解すること ○犯罪や危険に巻き込まれないための注意点を理解すること</p>	<p>・社会 ・技術・家庭 ・道徳</p>	
	<p>コンピュータウイルス コンピュータウイルスがコンピュータやネットワークに及ぼす危険性を理解し、適切な予防対策を講じる能力と態度を育てる。</p> <p>○コンピュータウイルスは感染被害者が一転して加害者になる可能性を理解すること ○コンピュータウイルスが感染する場合の特徴を理解し、感染を防止すること ○日常的に駆除ソフトウェアを活用することによって適切に予防すること</p>		<p>・技術・家庭 ・総合的な学習の時間</p>
(2年)	<p>不正アクセス ネットワーク上における不正アクセスの危険性について理解し、安全対</p>		

	<p>策を講じる能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭等、身近な防犯対策と関連付けてとらえること ○ユーザ名とパスワードの役割について理解を深め、それらを適切に管理できること ○ネットワーク上での技術的な不備^{※2}による不正侵入とその対策について知ること <p>※2 ソフトウェアやLAN 構築の欠陥(セキュリティホール、ファイアウォール)等</p> <p>個人情報 ネットワーク上で送受信される情報は、第三者に悪用される可能性があることを理解し、個人情報を慎重に取り扱う態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の取扱いは、プライバシーの尊重と関連付けてとらえること ○個人情報の大切さを理解し、安易に個人情報を発信しないように注意すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭 ・技術・家庭 ・総合的な学習の時間
3年	<p>人権・プライバシー インターネット上で人権やプライバシーの侵害等につながるような悪質な情報が流されている問題の要因について考え、人権やプライバシーを尊重したネットワーク利用ができる態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他人への中傷や侮辱、無責任なうわさ等の入力行為を許さないこと ○特定の個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な落書き行為を許さないこと。 <p>著作権 著作権について理解を深め、権利を侵害しないように情報を適切に扱う態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○著作権の保護は、知的財産と利益に関連付けてとらえること ○創作意欲を支援する意味を持つことを知ること ○使用の原則と学校や家庭における例外的使用について正しく理解すること ○ネットワーク上でのデータの取扱いについて理解すること ○紙幣や有価証券などのコピーは、刑法によって重く罰せられることについて知ること <p>健康上の問題 コンピュータなどが体や心に及ぼす影響について知り、自らの健康を適切に管理していく能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ等の操作作業に関わって生じる身体的影響について理解を深め、望ましい習慣と環境で健康障害の予防に心がけること ○コンピュータ等に熱中することで生じる精神的影響について理解し、望ましい活用について心がけること ○携帯電話等の情報端末から放出する電磁波が医療機器等に及ぼす影響を理解し、公共の場での利用について適切に判断できること 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 ・道徳 ・総合的な学習の時間 ・国語 ・社会 ・音楽 ・美術 ・外国語 ・総合的な学習の時間 ・保健体育 ・技術・家庭 ・道徳 ・特別活動

参考資料 「情報モラル教育」指導体系表(埼玉県教育委員会)
「情報モラル教育」指導資料 <http://www2.spec.ed.jp/shiryo/inf-moral/>

(2) 指導事例

指導にあたっては、

- ・ 児童生徒自身が倫理的な問題を解決していける力を身に付けさせるため、主体的な判断や行動を促す機会を持たせる。
- ・ 情報機器活用による影の部分だけでなく、それを克服して光の部分をも十分に活用できるようにする。
- ・ 基本となる日常の倫理意識を育成するために、児童生徒自身の感性に訴え、人間としての倫理意識や判断力を育てる。

ことを押さえ、各学校の創意工夫で様々な手立てが考えられる。

■小学校1年

■題材名 「じぶんのぼしょに えをほぞんしよう」

■ねらい コンピュータにログインすることとお絵かきソフトで描いた絵を保存する活動を通して、自分の作品を大事にすると同時に友達作品も大事にしようとする態度を育てる。

■利用教材 ジャストスマイル、スカイメニュー、電子ボード、プロジェクタ

■学習の展開 (1時間扱い)

主な学習活動	指導上の留意点
1 コンピュータを起動し、ジャストスマイルをクリックする。	・ スカイメニューの静止画面で、児童の状況を把握しながら進める。
2 クラスの名簿の中から自分の名前を探し、クリックする。 ・ 「ログイン」という言葉を覚える。	・ 2人で1台を使用する場合は、「1番目にログイン」「2番目にログイン」をしっかりと押さえる。
3 「お絵かき」をクリックし、今まで学習した操作で自分の好きな絵を描く。 ・ できあがったら、自分の名前をスタンプする。	・ 児童の作品を途中経過を含めて、随時ボードに提示する。 ・ 自分の名前をスタンプすることで、自分の作品という意識付けを図る。 ・ グラデーション、壁紙、図形、スタンプなどを使用してもよい。
4 描いた絵を保存する。 ・ 「絵1」というファイル名で保存する。	・ 保存のしかたは、初めてなので、電子ボードでやり方を提示する。 ・ 「保存」という言葉を押さえる。また、リュックサックの絵に関連付けて覚えられるようにする。
5 保存した絵があるか、確かめる。 ・ 「ひらく」をクリックして、「絵1」を開き、絵がしっかり保存されているか確かめる。	・ 保存されていなかった児童には、個別支援をする。
6 ジャストスマイルを正しく終了し、コンピュータをシャットダウンする。	・ 画面の電源も切ることができているか確かめる。

■小学校 4年

■題材名 「電子掲示板を使うときのマナーについて考えよう」

■ねらい 電子掲示板の特性を理解し、マナーを守って適切に利用しようとする態度を育てる。

■利用教材 ハイパーキューブねっと Jr

事例で学ぶ Net モラル (B-02 掲示板を使うときに気をつけること)

■学習の展開 (1時間扱い)

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 掲示板を疑似体験する。</p> <p>○ハイパーキューブねっと Jr 等のソフトウェアで電子掲示板を疑似体験し、その楽しさや利便性について知る。</p> <p>2 電子掲示板の特性を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を簡単に発信したり、受け取ったりできる。 ・不特定多数の人が見ることができる。 ・匿名性が高い。 <p>3 掲示板の長所や短所について考える。</p> <p><長所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中の人と簡単に情報交換できる。 ・自分の書き込みに対してすぐに反応を知ることができる。 <p><短所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・匿名性が高いため情報の信頼性が低い。 ・悪口や陰口を書かれることがある。 ・相手の顔が見えない。 <p>4 教材を見て話し合う。</p> <p>(事例で学ぶ Net モラル B-02 はじめの映像クリップ)</p> <p>○教材を見た感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変な書き込みはよくないと思う。 ・自分にも似たような経験がある。 <p>○電子掲示板を利用する時に気をつけなければならないことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って言葉を選ばなくてはならない。 ・相手の傷つく言葉を書いてはいけない。 ・内容に責任をもたなければならない。 ・書かれた内容が信頼できるか確認しなければならない。 <p>5 教材を見て本時のまとめをする。</p> <p>(事例で学ぶ Net モラル B-02 まとめの映像クリップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示板に書き込む時は読む人の立場に立ってていねいな言葉を使おう。 ・相手の傷つく言葉や悪口は書き込まないようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意欲づけを図る。 ・実際の掲示板と比較しながら電子掲示板の特性を説明する。 ・疑似体験や実体験などから考えさせるようにする。 ・感想をもとに、電子掲示板で気をつけなければならないことを話し合う。 ・児童の発表や感想をもとに、児童の言葉でまとめるようにする。

■小学校6年

■題材名 「有害サイトに出会ったら」

■ねらい ウェブサイトには有害なサイトがあることを理解し、危険な情報に対して適切な対処ができる態度を育てる。

■利用教材 「情報モラルを学ぼう」 (<http://www.wmc.gr.jp/security/> : 教材ドットコム)

■学習の展開 (1時間扱い)

主な学習活動	留意点
<p>1 有害サイトに出会ったり、困ったりした体験を 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダルトサイト ・暴力サイト ・詐欺、架空サイト など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトには有害な情報が含まれていることがあることを知らせる。 ・有害サイトの内容についてあまり深くは触れないようにする。
<p>2 教材用ウェブサイトを体験する。</p> <p>○情報モラルを学ぼう (教材ドットコム) 「不適切な情報には近づかなければいい」を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うまい話にはのらない～ネット詐欺～」 ・「購入してはいけないもの～法律に触れる行為～」 	
<p>3 教材用ウェブサイトを体験した感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甘い言葉についついクリックしてみたくなる。 ・クリックするとどうなるか気になってしまう。 ・クリックしたら突然警告文が出て驚いた。 ・似たようなサイトを見つけたことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験と照らし合わせながら考えさせるようにする。
<p>4 有害サイトの被害の実態を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワンクリック詐欺 ・マルウェア*のダウンロードによるウイルスへの感染、情報流出など 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に有害サイトによる被害のニュースや新聞記事を準備しておく。 ・被害の実態について詳しく解説する。
<p>5 有害サイトに出会ったときの対処法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味本位でクリックしないようにする。 ・有害な情報には近づかないようにする。 ・困ったときはすぐに大人に相談する。 ・ショッピングやオークションは子どもだけではないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉でまとめるようにする。

*マルウェア：コンピュータウイルス、ワーム、スパイウェア等、悪意のあるソフトウェアの総称。

■中学校2年「技術・家庭」

■題材名 「電子掲示板で個人情報を正しく取り扱おう」

- ねらい
- ・個人情報の重要性を認識し、個人情報保護の姿勢を身に付ける。
 - ・個人情報の悪用による被害を理解し、適切な対応ができる。
 - ・Web ページや電子掲示板により適切に情報発信できる態度を養う。

■利用教材 インターネット閲覧ソフト、スカイメニュー、電子ボード、プロジェクト

■学習の展開 (1時間扱い)

主な学習活動	留意点
<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>2 「個人情報」とは何かについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報について理解していることを発表する。 ・個人情報についての説明を聞く。 <p>3 電子掲示板に「個人情報」が公開された場合、どのような被害が発生するかを考える。</p> <p>例：Aは、転校していったBから、CとDの連絡先（住所と電話番号）を聞かれた。他の人の連絡先も聞かれると面倒なので、クラス名簿を電子掲示板に掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される被害を発表する。 <p>4 模擬ページにアクセスし、どんな問題が発生するかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用し、各自でまとめる。 ・小グループで話し合い、全体で発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○いたずら電話やメールが送られてくるようになってしまうかもしれない。</p> <p>○不審者につきまとわれたりリストーカーの被害にあったりするかもしれない。</p> <p>○誹謗中傷やでたらめな内容が書き込まれるかもしれない。</p> <p>○不要なダイレクトメールや品物が送られてくるかもしれない。</p> </div> <p>5 個人情報が、どのように漏れてしまうか考える。さらに、適切な個人情報の公開について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループで話し合い、全体で発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○業者などから直接電話で聞かれる。</p> <p>○Web ページに他人が勝手に掲載する。</p> <p>○名簿（紙）のコピーが他人に渡っている。</p> <p>○自分でインターネットのアンケートに書き込んだ個人情報から漏れる。</p> <p>○不必要な個人情報の提供は避ける。</p> <p>○他人の個人情報は勝手に公開しない。</p> <p>○自他の個人情報を慎重に扱う。</p> </div> <p>6 個人情報が漏れた結果、被害にあってしまったときの対処について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な対処方法を考え、発表する。 <p>7 本時の学習内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用し、各自でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のWeb情報(電子掲示板)を見せ、動議づけをする。 ・個人情報＝個人に関する情報でその情報により、またそれらを組み合わせることにより特定の個人を識別できるもの ・具体的な被害を予想させる。 ・いくつかの情報の組み合わせにより被害が拡大する可能性があることを押さえる。 ・自由に発表させる。 ・模擬ページを準備し、サーバーに保管し、スカイメニューにより閲覧を体験させる。 ・実際におきた事件や事故等を紹介して、理解を深めさせる。 ・注意すべき主な例＝氏名、住所、電話番号、写真、家族構成、学校名、自宅周辺の記述、地図等 ・自宅に送られてくるダイレクトメールや勧誘電話等、事実から原因を考えさせる。 ・他人の個人情報を了解なく公開することはプライバシーの侵害になることを知らせる。 ・コンピュータに限らず電話や紙媒体による事例にも気付かせる。 ・個人で対応せず、必ず保護者や教師に相談(必要ならば警察)することを理解させる。 ・メールの返信＝ヘッダ情報から新たな個人情報の提供になる。 ・電子掲示板の長所を生かした優れた活用事例を紹介する。

■関連した指導「道徳」

- ・主題名 責任ある行動 内容項目1-(3)
- ・資料名 「プロフの向こう側」(埼玉県道徳教育教材資料集第4集 平成20年3月)
- ・ねらい 情報機器とどのように接していくか主体的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ態度を育てる。

4 おわりに

「教室の情報化部会」では、「各教科等の目標を達成する際に効果的に情報機器を活用する」ことを目指し実践研究を進めた。「教室の情報化」は、従来の教育方法や教材・教具では実現が難しかった目標を達成すること、また、子どもたちの主体的な学習活動や発展的・創造的な学習活動を実現することを目的としている。今年度は、特に「普通教室で効果的に活用する」ことをねらいとした検証授業を霞ヶ関北小学校で実施した。「普段、紙媒体で提示していたものをプロジェクタで大きく提示する」というほんの一場面でのICT活用が、「子どもたちの視線が集まり指示が明確になる」「大きな教材により子どもたちの理解が深まる」等の学習効果を上げることが改めて確認できた。平成20年3月現在の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」（文部科学省）によれば、「授業中にICTを活用して指導ができる教員」は約6割（55.2パーセント）となっている。今後とも、教職員のICT活用指導力の実態調査をよりきめ細かく行い、教職員研修の重点をどこに置いたらよいか明確にし、学校内外での研修の在り方を検討する必要がある。

「情報モラル教育推進部会」では、日常指導している「相手を思いやること」や「自分の身を自分で守ること」を基本に、学校全体の取組として子どもたちの発達段階に応じて、体系的に指導するためのモデルカリキュラムを作成した。今年度は、各学年ごとに指導目標と指導内容を明確にした形式とした。今後、各学校において、児童生徒の実態に応じた創意工夫ある指導計画の作成が必要である。また、推進委員会では、道徳をはじめとする各教科等における年間指導計画に情報モラル教育を組み入れた指導計画例や実際の授業展開モデル例を作成、検証していく予定である。

学力調査研究委員会

1 研究の概要

(1) 目的

平成19年度川越市中学生学力調査、平成20年度標準学力調査等を活用し、検査結果をもとに川越市の学力を分析し、川越市全体の傾向をまとめ、課題解決に向けた指導方法を各学校へ示す。

(2) 研究内容

- ① 平成19年度川越市中学生学力調査、平成20年度標準学力検査等の結果を分析する。標準学力検査については経年変化を示す。
- ② 国語、社会、算数・数学、理科、英語の教科部会毎に、川越市の傾向や課題をつかみ、課題解決のための具体的な指導方法を示す。
- ③ 各学校が自校で研修できるように、それぞれの調査等を分析し、活用できるような冊子を作成する。

(3) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成20年8月20日(水)	教育研究所	・ 委嘱書交付 ・ 趣旨説明 ・ 本年度の推進計画
11月28日(金)	教育研究所	・ 結果の考察 ・ 指導の手立ての検討 ・ 教育に関する3つの達成目標との関連 ・ 原稿の作成分担
平成21年1月19日(火)	教育研究所	・ 各部会の活動報告 ・ 各学校の実践の収集・検討、資料編の作成

2 各教科の総括

(1) 国語科

川越市中学校学力調査及び標準学力検査の検査結果から、国語においては概ね良好な状況であると考えられる。そこで、より一層の国語力の育成を考え、小学校・中学校との接続を考慮した「古典」についての指導の手立てを示した。

小学校国語

小学校での古典指導 ～中学校につながる学習指導法～

まずは古典の文章に慣れ親しませることが大切である。

古典をみんなで音読したり暗唱したりする。

独特の言い回しやリズムを感じ取り、楽しく古典に触れることができる。

さらに中学校で学習する教材に触れることにより、

中学校での古典学習に対する関心も高まり、深められるのではないかと

☆中学校で扱う教材例

「いろは歌」「竹取物語」「平家物語」「枕草子」「おくのほそ道」

○指導例 「いろは歌」

- ・授業の初めの5分程度を、音読の時間として全員で音読する。
- ・暗唱できた児童に発表させる。その際、児童の名前を掲示すると、励みになったり意欲づけになったりする。
- ・定着を図るため、音読カードを活用し、家庭の協力も得て、家庭学習を通して、音読に取り組めるようにする。

読み方を
表示する。

いろは歌

色は匂へど 散りぬるを (いろはにほへと ちりぬるを)
 わよだね つね ん (わかよたれそ つねならむ)
 我が世誰ぞ 常ならむ (うめのおくやま けさこにて)
 うい おくやま きょうこ
 有為の奥山 今日越えて (うめのおくやま けさこにて)
 えい
 浅き夢見じ 酔ひもせず (あさきゆめみし めひもせず)

ひらがなのみの
文章も載せ、いろ
は歌のおもしろさ
に気付かせる。

桜の花の色は美しく照り映えるけれど、すぐに散ってしまふ。それと同時に、私たちが人間の世の中も、だれがいつも変わらずにいられたらどうか。無常の世のような奥山を今日越えて行くような人生で、浅い夢を見るように目の前のことにまどわされず、世の中の出来事に酔いしれないようにしましょう。

大体の意味をとらえられるようにする。

〈ワンポイント・アドバイス〉

- ・暗唱できた児童には、賞状を授与し、さらなる意欲づけを図るのもよい。
- ・いくつかの教材を暗唱してから、賞状を出す、という方法も考えられる。
- ・図書室に「古典コーナー」を設けると、児童が気軽に古典にふれることができる。

賞状

あなたは、ふこと「いろは歌」の暗唱に成功しました。これからも努力を続け、暗唱名人になってください。

平成 年 月 日

○小学校

担任 ○○○○

中学校での古典指導 ～小学校での取り組みを生かす学習指導法～

目標：「情景や思いが伝わるように暗唱しよう」

【古典指導のステップ例】

Step1. 導入の工夫～古典への興味を高める～

多様な教材の活用

- 絵本・紙芝居・アニメDVD・漫画・かるた・百人一首・デジタル教材など

古典の世界を知る

- 古人の生活・文化・背景についてのクイズ・調べ学習など

Step2. 音読の徹底～リズムを味わう～

正確な読み

- くり返しの音読練習
「一斉音読」「微音読」「ペア音読」など
- 家庭との連携
「音読カード」配付→回数記入
- 歴史的仮名遣い・用語の確認

工夫した読み

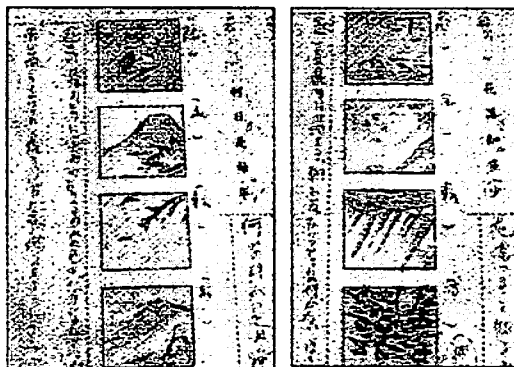
- 範読CDの利用
古典のリズム・抑揚・間などについての意識を高める。
- 補助プリントの活用

暗唱練習開始

Step3. 内容の理解～作品世界を味わう～

内容理解の手だて

- 口語訳の活用
情景や心情をとらえるための資料とする。難解な語や背景などについてもおさえる。
- 情景やエピソードのイメージ化
原文や口語訳の表現をもとに情景や場面などを絵で表す。



Step4. 1ランク上の暗唱～表現を工夫する～

表現の工夫

- 既習の「朗読の工夫の仕方」をもとに、表現を工夫する。
- 読み取った内容から、抑揚・間・速さ・強弱などの表現の工夫をワークシートに記入する。
- 暗唱練習では、自らが描いた絵をヒントカードとし、どのような情景・場面を暗唱しているのかを意識させる。

暗唱の方法

- 目標と約束事を確認する。
- 暗唱練習をくり返し行う。家庭での練習も位置付ける。
- 必修課題と自由課題に分け、苦手意識の強い生徒も取り組みやすいようにする。
- グループ学習・ペア学習など、授業形態を工夫し、生徒が教え合う場面を設定する。

(2) 社会科

川越市中学生学力検査及び標準学力検査の結果から、小学校においては日本の工業地帯の位置、中学校においてはグラフの読み取り方に課題があることがわかった。このことを踏まえ、小学校・中学校との接続を考慮し、「工業地帯」についての指導の手立てを示した。

小学校社会

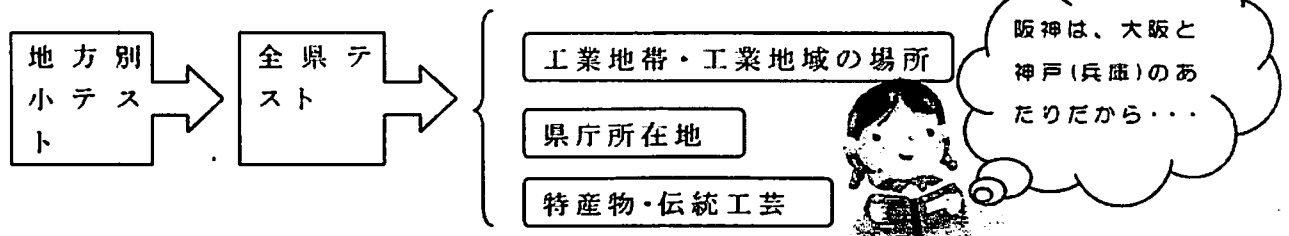
日本の工業地帯の位置や特色をどのように指導していくか。
～都道府県の学習と資料の読み取りを通して～

小学校第5学年「上」P.74～81「工業生産と工業地域」

本単元では、町工場から京浜工業地帯や京葉工業地域、そして日本全体の工業地帯まで学習対象を拡げている。日本全体の工業地帯の名称、及び場所や特色を学習する時間は1時間となっており、知識・理解を深めることが難しい。工業地帯の特色を調べるための資料の読み方とともに日本の都道府県の位置を理解することでさらに本単元の理解がより深まると考えられる。そのために、年間を通した都道府県の位置の反復学習と正確な資料の読み取り方の学習を取り入れていきたい。

指導のポイント(1)都道府県位置の反復学習(習得)

- ①年度当初に都道府県の位置確認をし、白地図に記入させておく。(かわごえ上・下の白地図を活用する)
- ②関東地方から、地方別小テストを実施。事前に予告し練習させておく。
- ③何回か練習をくり返し、全県テストを実施。(定期的に何度か行うとよい。)
- ④さらにこの都道府県テストに工業地帯、工業地域の場所を書き加えさせたり、県庁所在地を書き加えさせたりと発展的に活用していく。



★ノートにはっておこう!★

指導のポイント(2)資料の読み取り方の指導

(活用)

- ①資料の読み取り方・読み取る視点をいつでも見られるところに掲示する。
または、プリントにしてノートに貼らせておく。
- ②資料から推測して考え、グループで話し合う活動を取り入れる。
例・機械工業が発展している理由は何か。
・太平洋ベルトが発展した理由は何か。
- ③個人→グループ→一斉で話し合うことにより理解を深める。

<資料の読み取り方>

- ①資料の名前、単位は何か。
- ②一番多いものは何か。
- ③全体的にどのように変化しているか。
- ④変化はどこが大きくてどこが小さいか。
- ⑤変化している理由は何か。
- ⑥他の資料と比べながら見て気づくことはないか。

グラフの読み取り方法をどのように指導していくか。
 ～日本の主な工業地帯・地域の生産額の割合とその変化を例として～

中学校 第1学年・第2学年 地理P.81・190

写真やグラフ、統計資料などから地域や自然、産業等の特色を読み取る学習を苦手としている理由は、普段から資料に慣れ親しんでいないことが原因であると推測される。これを克服するためには、普段から資料を活用した授業展開を行うとともに、資料から正確な事象や数値を読み取り、なぜそのようになっているのかを考えることが重要である。ここでは日本の工業地帯・地域のグラフを読み取り、比較させ、地理的事象を考える手立てを提案する。

学習課題「日本の工業の特色を読み取ろう」
 ねらい：日本の工業地帯・地域の特色を比較し、考え、理解する。

◇学習活動例 日本の工業地帯・地域の特色を考えよう。

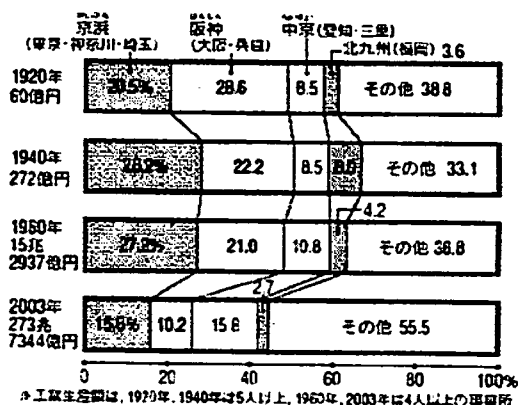
〔活動内容〕日本の工業地帯・地域のグラフを提示し、各数値を正確に読み取り、比較することにより、その特色に気づかせる。

指導のポイント（1）グラフから数値を正確に読み取る（習得）

グラフをもとに、単位に気をつけながら、数値を読み取らせ、なぜそのような数値になっているのかを考え、各工業地帯・地域の変容や規模に気づかせる。この時、1940年と1960年を比較すると生産額が桁違いに増加していること、それらの時期と高度経済成長の時期が重なっていること。さらに1960年と2003年を比較すると交通網の発達や産業技術の発展に伴い、その他の部分に当たる内陸部にも工業地域が形成されるようになり、四大工業地帯の生産額の割合が減少していることにも気づかせたい。

指導のポイント（2）グラフの比較から特色について考える（活用）

教科書P190「各工業地帯・地域の生産額」と比較することによって、なぜそのような結果になっているのかを考えさせ、各工業地帯・地域の工業にはそれぞれ特色があることや、生産額の変化が産業構造の変化と深く結びついていること、地域的特色に結びついていることに気づかせ、理解させる。



おもな工業地帯・地域の生産額の割合とその変化

(3) 算数・数学科

川越市中学校学力調査及び標準学力調査の検査結果から、文章問題解決の糸口として、問題場面的に図や表、数直線に表す力を育てていくことが算数・数学の学習指導で求められる。このような取組を小中学校で一貫して進めることが大切である。以下にその例を示す。

小学校算数

演算決定の力を身に付けさせるためにはどうしたらよいか

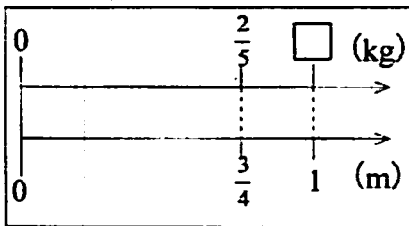
小学校第6学年上P.71～83「分数のかけ算とわり算(2)」

小学校では、第3学年までに整数の四則演算を学習し、その後、小数、分数と扱う数の範囲を拡張していく。児童にとって、小数や分数の問題場面は、正しく把握することが難しくなる傾向がある。そこで、問題場面的に正しくとらえられるようにするために、図や数直線を活用できるようにする。さらに、計算の仕方を導く経過や答えの確かめ、自分の考えの説明等、様々な場面で図や数直線で表す活動を意図的、継続的に指導し、児童の思考力や判断力、表現力を高めることで、演算決定の力も高められることになる。

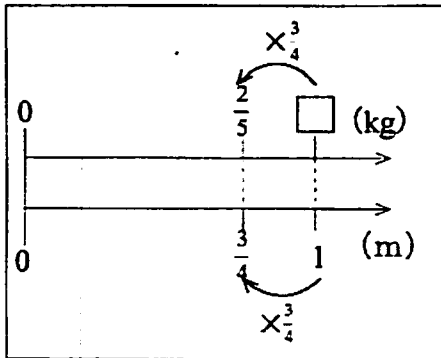
例題

$\frac{3}{4}$ mの重さが $\frac{2}{5}$ kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。

ア 数直線をかいて問題の構造を把握する



※ まず、問題文の意味をじっくりと理解させることが重要である。何を聞かれているのかを明確にするとともに、問題文の中に出てくる数値の意味を数直線にかくことで、捉え直すように働きかける。また、答えの大きさの見当をつけることも有効である。



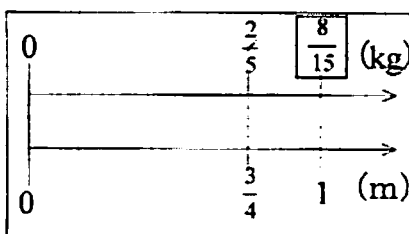
イ 比例関係に着目して、□を用いてかけ算の式に表す。

$$\square \times \frac{3}{4} = \frac{2}{5}$$

※ 5年生の小数÷小数を想起させ、自力解決の手立てをもたせる。

$$\begin{aligned} \square &= \frac{2}{5} \div \frac{3}{4} \\ &= \frac{8}{15} \end{aligned}$$

ウ 数直線にあてはめて答えを確かめる



答えは $\frac{2}{5}$ よりも大きくなった!



正しく立式し、問題解決できた児童についても、図や数直線に表したり、式から問題をつくったりする活動に取り組ませる。このような算数的活動を通して、思考力や判断力、表現力を高め、中学校の学習に繋げるようにする。

方程式の利用の学習では、方程式をつくる指導をどのように工夫したらよいか

中学校第1学年 P. 81～85 「方程式の利用」

方程式を利用して文章問題を解く場合、方程式をどのようにつくるかがわからず、苦手になっている生徒が多い。そこで、方程式の利用の学習において、数量の関係を方程式に表す方法を生徒が確実に理解し、身に付けられるようにすることが重要である。小学校では、方程式の素地的な学習として、数量の関係を□や○を用いて式に表したり、それにあてはまる数を調べたりしている。その際、図や表を利用し、数量の関係を確かめている。そこで中学校においても、図や表を利用して方程式のつくり方を丁寧に指導する必要がある。

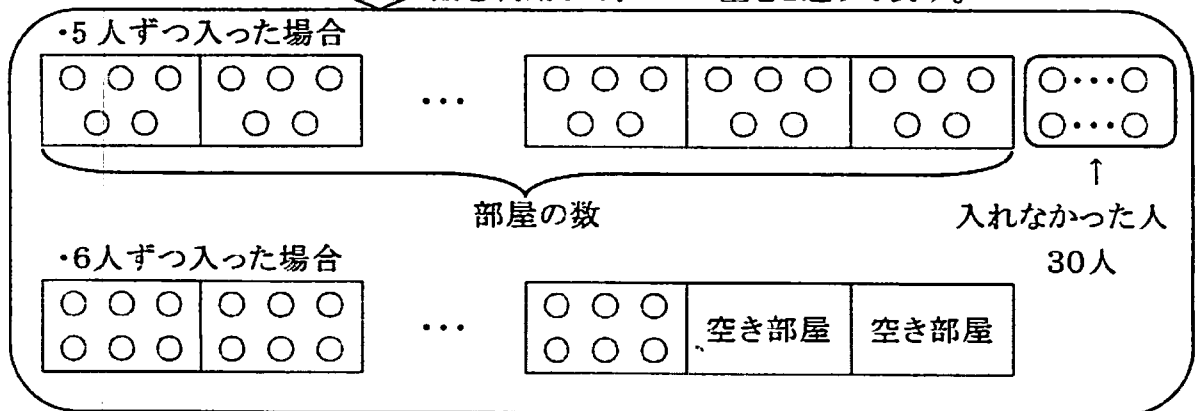
例題

修学旅行の部屋割で、1部屋5人ずつにすると30人が入れず、1部屋6人ずつにすると空き部屋が2つできるが、それ以外の部屋はすべて6人ずつ入れるという。
部屋の数を求めなさい。

ア 問題文の意味を把握する

問題文をよく読み、問題の中の数量に着目して、数量の関係をつかむ。

↓ 図を利用して、1つの量を2通りで表す。



イ 等式が成り立つ数量を見つける

1部屋に5人ずつ入る場合と6人ずつ入る場合のどちらも修学旅行に行った人数は同じ

↓

$$\text{5人ずつ入った場合の人数} = \text{6人ずつ入った場合の人数}$$

ウ 文字を使って方程式をつくる

部屋の数を x とすると

$$\text{5人ずつ入った場合の人数} = 5x + 30$$

$$\text{6人ずつ入った場合の人数} = 6(x - 2)$$

↓

$$5x + 30 = 6(x - 2)$$

図や表を利用することで、数量の関係がとらえやすくなり、式をつくりやすくなることを実感させたい。

また、図や表を使わずに式をつくることのできる生徒には、どのように式をつくったのかを図や表に表して説明させることで、理解を深めることができ、思考力、判断力、表現力を育成することもできる。

(4) 理科

川越市中学校学力調査及び標準学力検査の結果から、理科においては小学校・中学校ともに「電流」に課題があることが明確になった。このことを踏まえ、小学校・中学校との接続を考慮し、「電流」についての指導の手立てを示した。

小学校理科

電気の通り道と電流の流れる向きを理解を深めるためにどのように指導したらよいか

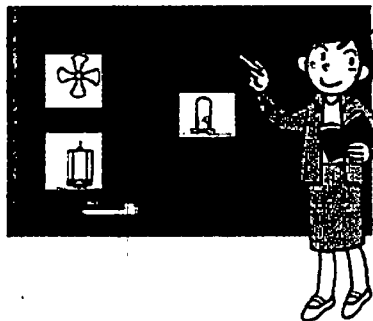
小学校第3学年 P.62 「電気であかりをつけよう」

小学校第4学年(上) P.16 「電気のはたらき」

回路を作るために必要な器具をカード(「小学校理科資料」参照)にし、カードで回路を作る。作った回路のカードと実物を交換し、実際の回路を作る。この手順を踏むことにより気軽に回路を作ることができるので、児童は実感を伴って理解できる。

[カードを使った指導の場面]

場面① 黒板の教材提示



電流の流れる
向きがわかる
ものは...

場面③ 理解を助けるヒントカード

実際の回路作りにつまづいたらカード
に戻って、練習しよう!



場面② 児童個々の学習

カードを使った回路作りを繰り返し練習して回路作り
に自信を持とう!



電流が流れる
道筋を「回路」
と言います。

場面④ 単元のまとめ

[学年に応じて身に付けさせたい力]

第3学年 ～実験の結果を表などに整理して考える「比較する力」～

- 電流が流れるためには回路が「わ」になることが分かる。
- カードを使いながら回路を説明することができる。

第4学年 ～伴って変化する2つの事象を「関係付けてとらえる力」～

- 電流の流れる向きを回路につないだ検流計やモーター、発光ダイオードを使って知ることができる。
- 電池のつなぎ方を変えることで電気の働きが変わることが分かり、直列つなぎ・並列つなぎという言葉を使って説明することができる。

色々な回路図を記入したカードを利用し、ゲーム感覚で回路図と実際の装置を結びつけたい。また、実験だけでは、どうしても装置を組み立てる人が決まってしまうので、個別化することにより実際にふれる体験を多くし、定着を図る。

《回路図カードを使ったパフォーマンステストの実施》

(1) 目的

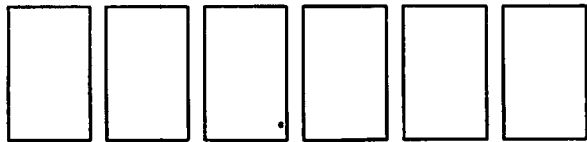
回路図を見て、回路図通りに実験装置を組み立てることができるようにする。

(2) 準備

ストップウォッチ、回路図を記入したカード(各班6枚)、評価カード
電源装置、電流計、電圧計、電熱線A、B、クリップ付き導線、筆記用具

(3) 授業例

①グループごとに、回路図を記入したカードを〔6枚〕配布する。
次に各自順番にカードを1枚引く。



※カードは裏返しておくこと。
※ゲーム感覚の雰囲気をつくらう。

②パフォーマンステストを実施する。



時間は3分
だよ!

回路図をよく
見てね。

※時間を決めよう。

③評価カードに評価・感想を記入する。

並列回路は難しいな。
時間が足りなかった。



(4) 評価項目

- ・直列回路・並列回路になっているか。
- ・+端子、-端子は正しくつないでいるか。
- ・回路図通りに組み立ててあるか。
- ・時間内に組み立てることができたか。
- ・電圧計は並列に、電流計は直列につないでいるか。
- ・電流・電圧の値を正しく読み取ることができるか。



(5) 英語科

川越市中学生学力調査及び標準学力検査の結果から、「書くこと」に課題があることが明らかになった。小学校の外国語活動の実施に伴い、小中連携の中で基礎基本の定着を図ることが大切になってくる。そこで、入門期の「書くこと」における指導の手立てを示すこととした。

入門期の言語活動を活発にするためには、どのように指導したらよいか

入門期の生徒には、コミュニケーション活動を多く取り入れた授業を行いたい。そのためには、語彙を豊富にすることが必要である。中学校での実践例を紹介するが、方法の①から③は小学校でも充分可能な活動である。小中の連携を図り、同じ教材を用いて、小学校では『楽しみながら英語の基本的な表現に慣れ親しむこと』を目標とし、中学校では英作文等、文字を使って自己表現できるように指導することで、基礎・基本の定着を図りたい。

<実践例> Do you like...? を用いたインタビュー活動

1 ねらい コミュニケーション活動を楽しみながら、語彙を増やす。

2 方法

① AETとピクチャー・チャートを見ながら発音練習を行う。

② 4~5人の班を作り、カルタの要領で、AETが発音した花の絵札を取り合う。

③ ワークシートの絵の中から好きな花を○で囲み、Do you like...? を用い、友だちに尋ねる。友だちの答えを Yes No にチェックする。


④ Do you like...? を用いた英文を3つ以上書く。

どんな花が好き？ 友だちに聞いてみよう。

Do you like _____ ?

Yes (好き) ♡♡♡♡♡ ♡♡♡♡♡

No (嫌い) □□□□□ □□□□□



制限時間を設けて話した人数を競わせたり、AETに話しかけるとシールがもらえるなどの特典を設けたりして、モチベーションを高めることもできる。

単語はカテゴリー毎に学習することで覚えやすくなる。花をスポーツ、動物、色、果物、野菜、国名、職業などに変えたり、want や have 、 eat などの動詞を使ったりしてバリエーションを増やすこともできる。英作文による自己表現活動を行う際、和英辞書を使わせることも語彙を増やす大きな手助けになる。

「書く力」の定着を図るには、どのように指導したらよいか

英語を学習する際、基礎基本の定着を図る上で単語や英文を書く練習が必要である。そして、ただ書くだけではなく、英語を正しく音読できるようにすることでより効果的に「書く力」を身に付けられる。そこで、教科書の本文を正しい発音・イントネーションですらすらと読み、その上で本文中に出てくる新出語句や英文を正しく書けるようにしていくという指導の流れにより、「コミュニケーション能力の育成」にも配慮した「書く力」の定着を図りたい。

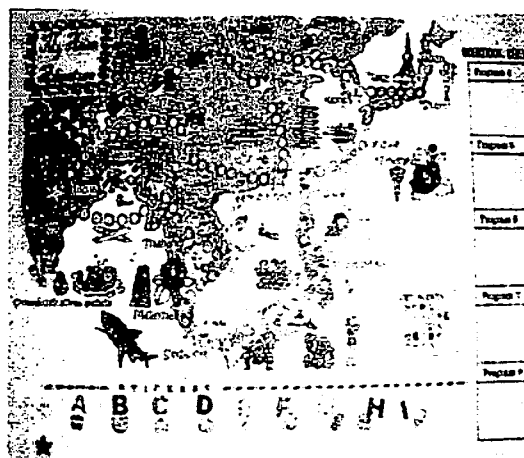
<実践例 1> 導入時における暗唱タイム(Recitation Time)の実施

1 ねらい

発音の仕方(読み方)や文の構成に着目しながら、自分の力で音読し、暗記することのできる力を養う。

2 方法

- ①授業の導入(ウォームアップ)として、毎時3人程度の希望者が発表する。
- ②セクション毎に、みんなの前で(自分の席で)暗唱する。
- ③暗唱できた生徒は、アルファベットのシールをもらい、「評価カード(右図)」に集める。



<評価カード>

※発表しない生徒が出ないよう、常に声かけをする。

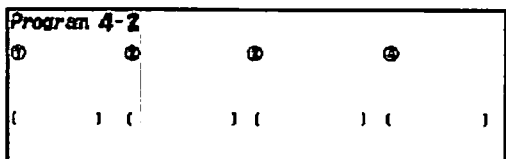
<実践例 2> 「Pop Test」: フラッシュカードを利用したミニ単語テスト

1 ねらい

短時間で英単語を記憶し、ゲーム感覚で意欲的に書く力を高める。

2 方法

新出単語をフラッシュカードで導入した後、定期的実施する。



<Pop Test>

- ①教師がフラッシュカード4枚を選ぶ。
 - ②カードを黒板にはり、「スペル」と「意味」を暗記する。(1分間程度)
 - ③カードを裏返し、日本語を見て英単語を書く。
- ※余裕のある生徒は()内に意味を書く。

<実践例 3> 本文テスト

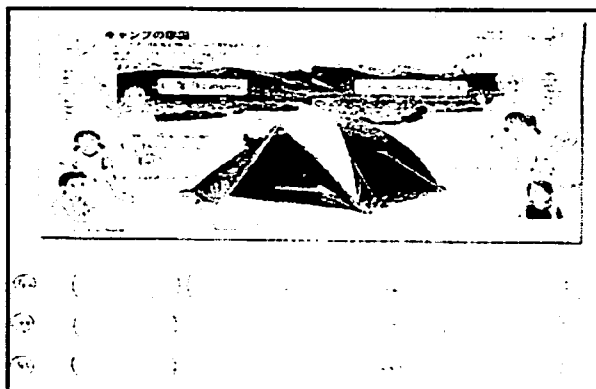
1 ねらい

「読めて書ける！」達成感を一人でも多くの生徒に味わわせる。

2 方法

プログラムのまとめとして行う。

- ①本文の一部を空欄にしたワークシート(本文テスト)を行う。
- ② 正答数80%以上を合格とする。



教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

1 研究の概要

(1) 目的

全市立小・中学校の教育に関する3つの達成目標に向けた教育活動を活性化させ、児童・生徒のバランスのとれた学力・規律ある態度・体力の育成を図る。

(2) 研究テーマ

「次代を担い、たくましく生きる児童生徒の育成」

(3) 研究方針

教育に関する3つの達成目標を推進する学校を支援する資料を提供する。

(4) 研究内容

これまでに本委員会が作成した指導資料の活用の仕方等について、具体的な実践事例を検討する。

(5) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成20年7月1日(火)	教育研究所	・委嘱書交付 ・趣旨説明 ・計画の策定 ・各部会：研究の取組・方向について検討
8月中	教育研究所	・部会毎：小学校・中学校の課題 2学期の取組について 評価目標等について
11月28日(金)	教育研究所	・達成プランについて ・取組のまとめに向けて検討
平成21年2月6日(金)	教育研究所	・成果物の検討

2 各部会の取組

(1) 読む・書く部会

1 現状と課題

現在の教育に関する3つの達成目標「読む・書く」において、さらに川越市の目標到達数値に近づくためには、以下の3つの力が主に必要であると考えられる。①文を読み取って書き取る力、②作文としての書く力、③漢字を書く力である。

また、日々の授業の中や日常の学校生活の中ですぐに活用できる教材が必要であると考え、課題解決に向け、以下の実践をした。

2 課題解決の方策

(1) 取組の概要

課題解決方法として、以下の2点に取り組んでいった。

① CD「できるかな・できたかな」の活用

- ・「読む」力を育成するために、小学校の確認問題「できるかな」を活用した事例を展開する。「やまなし」(物語) 宮沢賢治と〈資料〉イーハトーヴの夢、畑山博(小学6年)の授業実践。
- ・「書く」力を育成するために、小学校の確認問題「できるかな」(意見文の書き方)を活用した事例を展開する。「みんなで生きる町」(小学6年)の学習における指導事例。
- ・「書く」力を育成するために、中学校のワークシート「心に残るあの一言」を活用した事例を展開する。「体験を伝え合おう」(中学1年)の学習における指導事例。公立高校の受験科目にある国語科の作文の字数制限を意識した展開である。

② 小学校・中学校間の交流を生かした漢字調査についてのワークシート作成

漢字の「書く」力を育成するため、本研究部員在籍校(2校の小学校6年生と1校の中学校1年生)の連携を生かし、漢字の実態調査をおこなった。その結果を基に、小学6年生や中学生が取り組める漢字のワークシートを作成した。

(2) 具体的実践事例

① 確認問題「できるかな」(読む)を生かした「やまなし」(物語) 宮沢賢治〈資料〉「イーハトーヴの夢」 畑山博(6年下)の授業実践

ア 確認問題「できるかな」(読む)を生かした取組

確認問題「できるかな」(読む)では、「かむこと力」や「生き物はつながりの中に」などで、書かれている内容の事実や様子や理由などを正確に読み取る学習を行っている。そのことを生かして、〈資料〉「イーハトーヴの夢」において、宮沢賢治の少年時代などについて正確に読み取りが行われているかどうかを把握するための確認問題を作成した。

《「イーハトーヴの夢」の確認問題の内容》

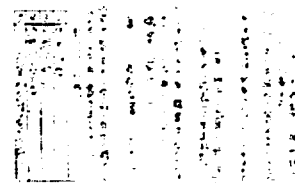
- ・賢治の生まれた年や場所、子どもの頃の様子など
- ・年代順に、賢治の行動(出来事)とその時の賢治の考えをまとめる。

例：1898年→岩手県の花巻に質店の長男として生まれる。(津波や洪水など災害に見舞われた年)

1921年→花巻にできたばかりの農学校の先生になる。

《賢治の口癖・・・稲の心が分かる人間になれ。》

イ 「やまなし」の読み取りから賢治の考え方や生き方を考える



「やまなし」は、比喩表現や擬声語、擬態語など賢治の独特の表現が駆使された象徴的で深い思想性をもつ美しい作品である。5月と12月の読み取りから、賢治の思いを考える学習を行った。

例（5月）→川の底で過ごしていて、とっても怖いことが起こったが、二ひきのかにの兄弟は、とても仲良し。

（12月）→月が明るく、水がきれい。お父さんはいつでもしっかりしていて、とてもやさしいかに。かにの兄弟は相変わらず仲が良く、弟が大きくなったから競い合いもできるようになった。

ウ 読書に広げる実践

「やまなし」の学習で、賢治の思いや考えをまとめた。そのことを生かして、賢治の他の作品においても、叙述から想像したことを基に、賢治の思いを児童が自分なりに考えをまとめる学習を行った。

《児童が取り組んだ作品》セロひきのゴーシュ、注文の多い料理店、どんぐり山猫、オッペルと像、度十公園林

エ 成果

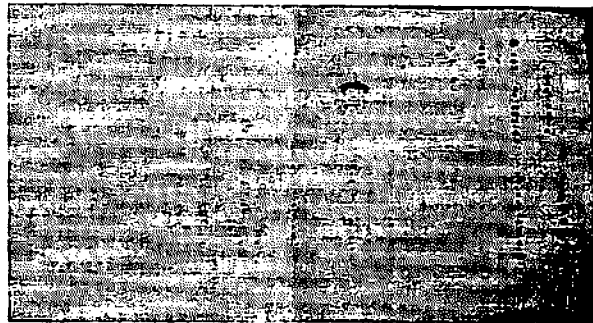
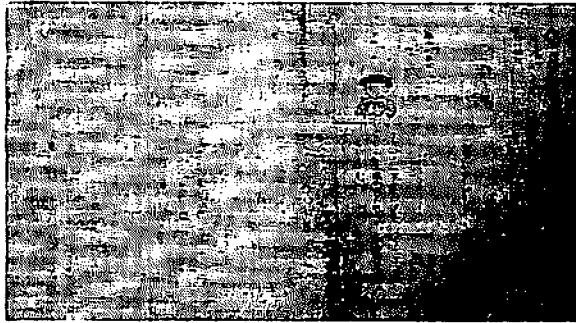
- ・ 賢治の少年時代のことや賢治の生い立ちや社会的な出来事の実事を正確に読み取る学習を行うことによって、「やまなし」の学習に生きた。
- ・ 賢治の他の作品を読むことによって、賢治の生き方や考え方に迫ることができた。

② 確認問題「できるかな」(意見文の書き方)を活用した「みんなで生きる町」(6年)の学習の指導事例

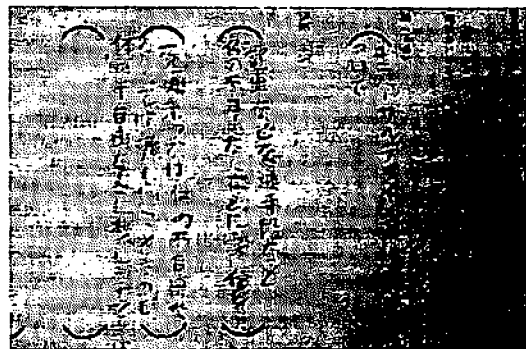
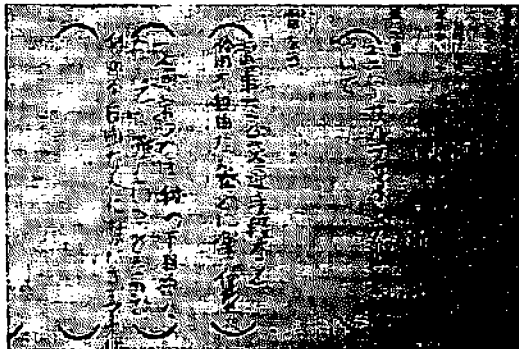
ア 指導の手立ての順

- (ア) 教材名と冒頭の文を読み、「みんなで生きる町」という意味について、話し合い、資料「多くの人が使えるように」を読み、「ユニバーサルデザイン」の意味を理解する。
- (イ) 学習の見通しをもつ。
- (ウ) 「ユニバーサルデザイン」の視点で、身の回りにある施設や物についての問題意識をもつ。そして、身の回りにある施設や物について調べる計画を立て、実際に調べ、ワークシートに取材する。
- (エ) 自分の生活の身近な施設や公共施設、あるいは、地域の様子などを取材し、気付いたことなどをまとめる。





(ユニバーサルデザイン取材ワークシート)



(ワークシート「書く」できるかな(意見文) ※反論の部分は書かなくてもよしとした。)

- (オ) 取材して分かったことや自分なりの率直な意見をワークシート「書く」できるかな(意見文)にまとめる。
- (カ) 取材してわかったことをもとに、自分の意見文を発表していく。
- (キ) 互いの発表を聞いて、疑問点や交換できることを話し合う。
- (ク) 教科書の文章例を基に、提案する相手や方法、形態などについて話し合う。
- (ケ) 提案として分かりやすく文章にまとめる。
- (コ) 友達同士で読み合って、よりよい提案になるよう、意見を交換する。

イ 成果

- ・自分の身近な社会の中で、ユニバーサルデザインについて、率直に思ったことを簡単にまとめていくのに有効であった。
- ・話題は、書きやすくするため、教師側から提案し全員で揃えた。また、実際に取材した後に書いた意見文は、説得力のあるものになった。
- ・15分程で、各自がはじめの意見をまとめることができた。少し説明を加えることで、児童は書きやすかったようである。
- ・2学期末に学習する「平和のとりでを築く」(小学6年・教科書下P. 32)につなげ、活用することができる。ワークシートをたくさん印刷しておき、気負わずに他の学習でも広げて使うことが、児童の書く力につながる。

③ 学校ワークシート「心に残るあの一言」を活用した「体験を伝え合おう」(中学1年・教科書P. 170~173)の授業

ア ワークシートの活用

(ア) 材料あつめ

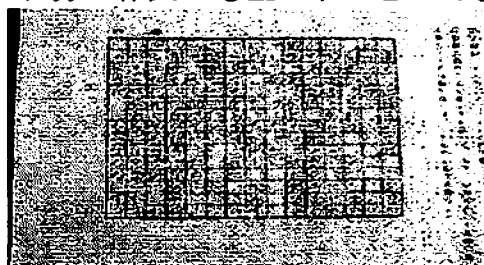
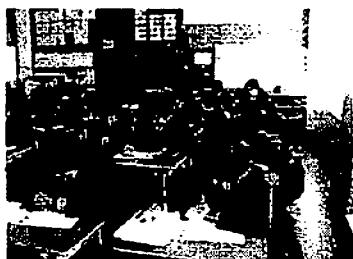
- ・うれしかった言葉
- ・くやしかった言葉
- ・悲しかった言葉
- ・楽しかった言葉
- ・驚いた言葉
- など

(イ) 構成メモの作成

- ・心に残った言葉 ・それにまつわる体験や思い出 ・心に残った理由
- (ウ) ワークシート清書
- (エ) 評価 (公立高校入試と同じ8点満点で採点して返却、原稿用紙の使い方、表記上で注意する点等をプリントで説明)
- イ 「体験を伝え合おう」の授業実践の流れ
- (ア) 材料あつめ
 - ・うれしかった思い出 ・くやしかった思い出 ・悲しかった思い出
 - ・楽しかった思い出 ・驚いた思い出 など
- (イ) 一番伝えたい体験を一つにしぼる。
- (ウ) 構成メモの作成
 - ・心に残った思い出 ・それにまつわる体験 ・心に残った理由
- (エ) 下書き (教科書P. 221「原稿用紙の使い方」参照)
- (オ) 班内で交換して推敲 (教科書P. 220「推敲のポイント」参照) →清書
- (カ) 発表会 (班内で発表し代表者を選出→代表者6名がクラスの前で発表)

ウ 成果

- ・ワークシートを活用することにより、課題作文を書くポイントがわかった。
- ・自分の体験を相手に伝わるように書くことによって、体験の意味を考えることができた。
- ・思いが伝わるように書くため表現を工夫しようとした。
- ・友達の文章を推敲することによって、自分の作文にも生かすことができた。



④ 小学校・中学校間の交流を生かした漢字調査についてのワークシート作成

- ・入間学力調査「国語」過去5カ年の漢字問題の中から、正答率の低い問題をピックアップし、小学1年から5年の内容で作成した。6年生は、1学期まで学習する漢字の中で誤りやすい問題を選んだ。
- ・全体の6割は送り仮名のない問題とし、4割は送り仮名も自力解決とした。
- ・問題数は、全50問。1問2点の100点満点として、調査した。
- ・A小学校145名、B小学校111名、C中学校96名で実施。3校の平均などを参考とし、期待正答率をワークシートに取り入れた。

※特に達成率の低かった問題(3校平均が50%以下の問題)

- 創立記念日(44%) ●勤勉(43%) ●専門家(39%) ●勇ましい(36%)

3 成果と課題

CD「できるかな・できたかな」を実際に活用したことにより、児童生徒の読む力や書く力の変容が見られた。また、小学校と中学校の連携により、実態を踏まえたすぐに活用できる漢字のワークシートを作成することができた。今後も自校の他学年や近隣の小中学校に進んで広めていき、目標数値達成のためにも、更なるCDやワークシートの活用を図っていきたいと考える。

漢字テスト

年 組 番

★漢字を書きましよう。

テスト範囲：小学一年生、小学六年、一学期 光村教育図書による

1問2点

1 ざつようび
2 きいろ
3 しんせつ
4 かぞく

5 てつぼう
6 きせつ
7 はったつ
8 しげん
9 ふくしゅう
10 じゅんび

11 ぼうえき
12 きそく
13 かいすいよく
14 試合にか

15 じょうけん
16 はんたん
17 きんべん
18 ゆうびんきつて

19 せんけい
20 ぎもん
21 こきゅう
22 そうりつきねんび

23 しょうよく
24 本のかんまつ
25 けん社員
26 せんもんか

27 理科のじつげん
28 毎日の出来事をきろくする
29 てんらん会

30 かいだんをあげる
31 子犬がうまれる
32 へやにはいる
33 家にかえる

34 人におしえる
35 みじかい
36 気持ちをあらわす
37 水をはく

38 ととのえる
39 あたたかいごはん
40 おぼえる
41 よろこぶ
42 およぐ

43 いさまし
44 たしかめる
45 田舎をたがやす
46 むすかし
47 水をかりる

48 あつまい
49 紙がもえる
50 みずから行動する

★漢字と送りがなを書きましよう。

漢字テスト 解答 年組番

（テスト範囲！小学一年生！小学六年、一学期 光村教育図書による）

★漢字を書きましよう。

1問2点

47 木を 借りる	43 いさ 勇ましい	38 ととの 整える	34 3人に 教える	30 30だんを 上げる	27 理科の 実験	23 しよくよく 食欲	19 そんけい 尊敬	15 じょうけん 条件	10 じゅんび 準備	5 てつ 鉄	1 げつようび 月曜日
48 あつ 厚い	44 たしかめる 確かめる	39 あたたかい 温かい	35 みじかい 短い	31 3子犬が 生まれる	28 毎日の 出来事を 記録	24 2本の 巻末	20 ぎもん 疑問	16 はんだん 判断	11 ぼうえき 貿易	6 きせつ 季節	2 きいろ 黄色
49 紙が 燃える	45 たがや 耕す	40 おぼえる 覚える	36 あはれ 表す	32 3へやに 入る	29 てん 展	25 は 派	21 こきゅう 呼吸	17 きんべん 勤勉	12 きそく 規則	7 はつたつ 発達	3 しんせつ 親切
50 みずから 自ら	46 むずかしい 難しい	41 よろこぶ 喜ぶ	37 水を 飲む	33 3車に 帰る	26 せんもんか 専門家	22 せうりつ 創立記念日	18 ゆうびん 郵便切手	14 1試合に 勝つ	13 かいすい 海水浴	8 しぜん 自然	4 かぞく 家族

★漢字と送りがなを書きましよう。

漢字テスト

解答・期待正答率

(テスト範囲)小学一年生、小学六年生一学期

光村教育図書による

★漢字を書きましよう。

げつようび(二年)

きいろ(二年)

しんせつ(二年)

かぞく(三年)

① 月曜日
てつ(三年)
95%

② 黄色のクレヨン
きせつ(四年)
92%

③ 親切なまご
はつたつ(四年)
小70%
中88%

④ 家族
しぜん(四年)
小77%
中88%

⑤ 鉄
じゅんぴ(五年)
88%

⑥ 季節
ぼうえき(五年)
70%

⑦ 発達
きそく(五年)
小65%
中72%

⑧ 自然
かいすいよく(四年)
90%

⑨ 復習よしゅう
かくしゅう(五年)
70%

⑩ 準備
じょうけん(五年)
小70%
中80%

⑪ 貿易
はんだん(五年)
75%

⑫ 規則
きんべん(六年)
小65%
中75%

⑬ 海水浴
ゆうびんきって(六年)
65%

⑭ 試合に勝つ
か(三年)
小80%
中100%

⑮ 条件
そんけい(六年)
70%

⑯ 判断
ぎもん(六年)
80%

⑰ 勤勉
こきゆう(六年)
65%

⑱ 郵便切手
そくりつきねんぴ(六年)
65%

⑲ 尊敬
しよくよく(六年)
小65%
中70%

⑳ 疑問
かんまつ(六年)
小65%
中80%

㉑ 呼吸
は(六年)
小70%
中90%

㉒ 創立記念日
せんもんか(六年)
65%

㉓ 食欲
じっけん(四年)
70%

㉔ 巻末
きろく(四年)
小70%
中75%

㉕ 派けんしやん
てん(六年)
68%

㉖ 専門家
せんもんか(六年)
65%

㉗ 理科の実験
あがる(二年)
小85%
中95%

㉘ 毎日の出来事と記録する
うまれる(二年)
小75%
中80%

㉙ 展らん会
はいる(二年)
70%

㉚ かいだんを上げる
おしえる(二年)
88%

㉛ 子犬が生まれる
みじかい(三年)
70%

㉜ へやに入る
あらわす(三年)
95%

㉝ 家に戻る
かえる(二年)
小75%
中90%

㉞ 三人に教える
ととのえる(三年)
小85%
中95%

㉟ 短いせんびつ
あたたかい(三年)
小70%
中88%

㊱ 気持ちを表す
おほえる(四年)
小70%
中88%

㊲ 水を飲む
およぐ(三年)
小70%
中90%

㊳ 整える
いさましい(四年)
小75%
中80%

㊴ 温かいごはん
たしかめる(五年)
小65%
中70%

㊵ 覚える
たがやす(五年)
65%

㊶ 喜ぶ
むすかしい(六年)
小75%
中88%

㊷ 泳ぐ
およぐ(三年)
小80%
中90%

㊸ 勇ましい
かりる(四年)
65%

㊹ 確かめる
あついでい(五年)
65%

㊺ 田畑を耕す
もえる(五年)
65%

㊻ 難しい問題
みすから(六年)
70%

㊼ 本を借りる
かりる(四年)
70%

㊽ 厚い本
あついでい(五年)
85%

㊾ 紙が燃える
もえる(五年)
小70%
中88%

㊿ 自らたためする
みすから(六年)
小70%
中88%

★漢字と送りながを書きましよう。

(2) 計算部会

1 現状と課題

現在の教育に関する3つの達成目標「計算」において、平成23年度の埼玉県の「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」に係る戦略指標に即し、「川越市達成プラン」として平成20年度達成目標値を設定し、遞増していくことを目標とした。

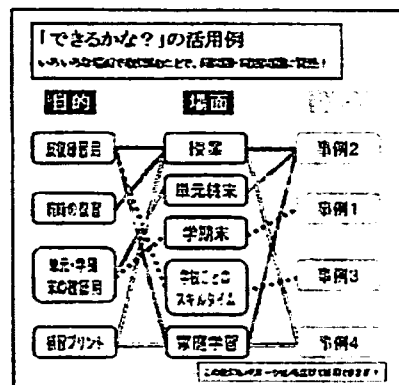
達成目標値に到達するためには、誤答・無回答についても考察を深めていく必要あるとの認識をもった。特に、課題の所在は、「できない」「わからない」ということだけでなく、PISA 調査や全国学力・学習状況調査のB問題などにおいて見られる無回答傾向にあると考えられる。そして、無回答とする要因としては、①知らない、経験のない問題には手をつけない、②学習意欲の低下の2点が挙げられる。

そこで、単に数値として達成目標値に到達することだけをねらいとするのではなく、難解な問題に直面してもあきらめずに取り組もうとする児童・生徒を育てることを含めた方策を考えていくこととした。

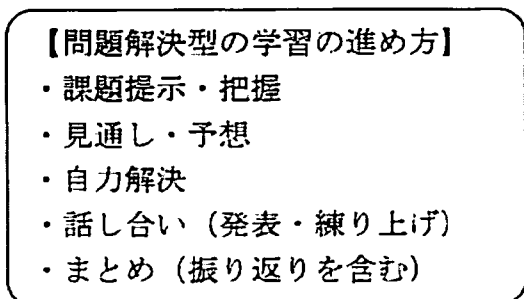
2 課題解決の方策

(1) 取組の概要

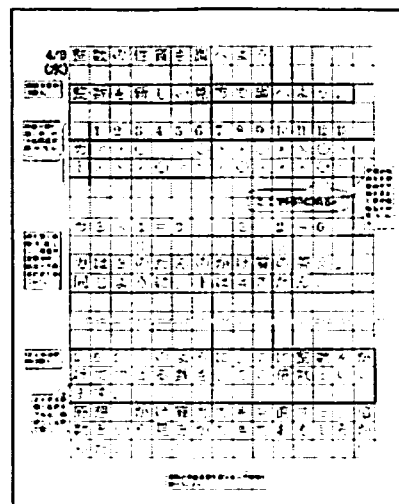
- ① 研究部員在籍校で標本調査（自学年・自学級の児童・生徒で実施）
 - ・結果を持ち寄り、それぞれの学校の傾向をとらえた。また、1月の調査との比較をした。
- ② CD「できるかな・できたかな」活用について
 - ・各学校への周知を図ることについて確認した。
 - ・昨年度作成のブックレット（図1）を参考にして活用した。
 - ・研究部員在籍校での一層の活用を図った。
- ③ 小学校・中学校間の交流について
 - ・小学校・中学校での取組例を紹介し合い、基本的に問題解決型の学習を進めていくことが大切であることを共通理解した（図2）。
 - ・問題解決型の学習の進め方を研究部員同士で確認した。小学校間では4月当初にノートを使い方例（図3）を作成し、授業の流れを確認した。また、小学校・中学校間においても夏季の部会で確認し、学校間で共通化できるところについて検討した。



(図1)ブックレットの活用例



(図2)問題解決型の学習の進め方例



(図3) ノートの使い方例

- ・小学校・中学校間の授業参観計画を立てた。研究部員の所属校での研究授業や、自発的な授業を参観し合うことを検討した。日程が合わず、授業交流は実施できなかったが、学習指導案での交流を行った。
- ・小中連絡会の活用を検討し、生徒指導上の問題のみを話し合うのではなく、学習指導についても検討できる時間を設けていきたいと考えた。特に、研究部員の地区ではスクールジョイントを行っており、小学校・中学校間の連携が他地区より密であることから、教科・領域等の打ち合わせにも活用できるのではないかという可能性を見出した。

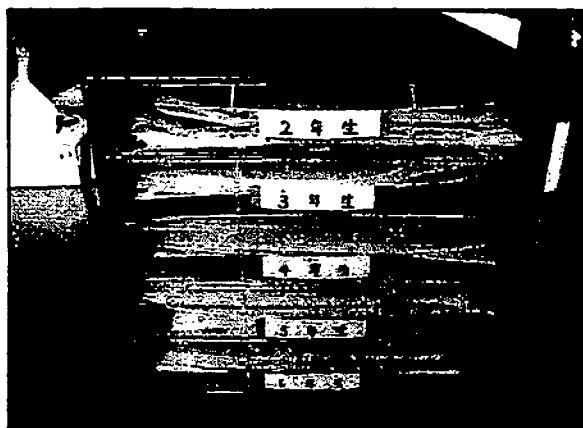
(2) 具体的実践事例

① 小学校における実践例 (川越市立大東東小学校)

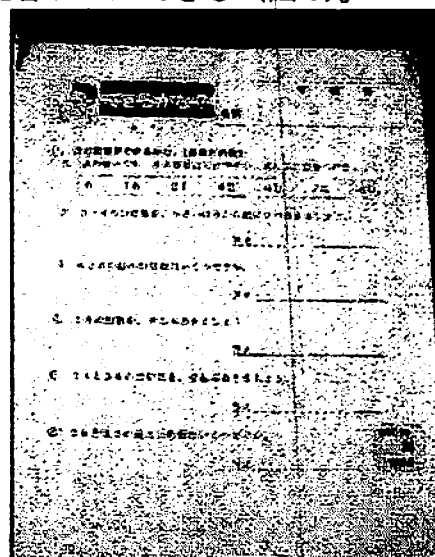
ア「できるかな」のCDの活用

今年度から業前の算数タイムや朝自習の時間に活用している。算数タイムでは、教師が全体で確認して子どもの習熟を高めている。

CDからプリントアウトした「できるかな」の確認シートを職員室に設けた引き出しに入れ、活用しやすいように分類している(図4)。また、授業中に練習問題としてチャレンジする場合等にも活用できるようにしている。表に問題、裏に解答を印刷しているので、子どもが各自で答え合わせができる(図5)。



(図4) 学年ごとに分類した引き出し

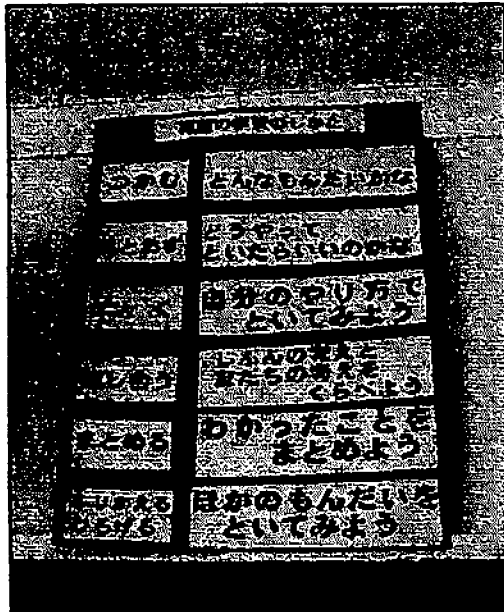


(図5) 表裏に印刷した問題用紙

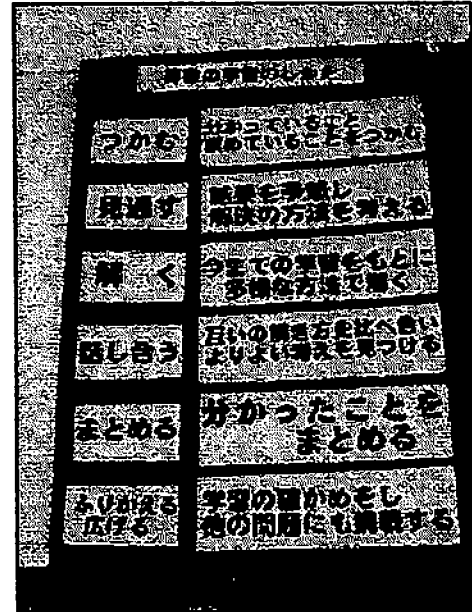
イ 学習の進め方

「つかむ」→「見通す」→「解く」→「話し合う」→「まとめる」→「振り返る」の学習の流れで授業を進めている。教室の前の黒板の上に全学年が「算数の学習の仕方」(図6、7) 掲示している。

低学年から学習の進め方を統一することで、児童に定着を図れるようにしている。現在、どの学年でも問題を自力解決する力が育ってきている。



(図6) 学習の進め方 (低学年)



(図7) 学習の進め方 (中・高学年)

ウ ノートの使い方

ノートを「算数ノート」と「計算ドリルノート」に分けた。「算数ノート」には学習問題や課題、自分の考え、学習のまとめなどを記入し、原則として1時間に見開き1ページを使用するようにした。計算ドリル等の練習問題は、「計算ドリルノート」を使用するようにした。ノートを分けることで、自分の解決方法や既習の学習内容を確認しやすいようにした。

② 中学校における実践例 (川越市立大東中学校)

本校では、数学科の取組として、ア 確認テスト、イ 百マス計算、ウ「できるかなシート」「できたかなシート」の活用をしている。また、教科の枠を超えて、エ 国語・数学・英語を中心とした基礎・基本の振り返り学習に、あらゆる機会をとらえて取り組んでいる。

ア 確認テストの実施

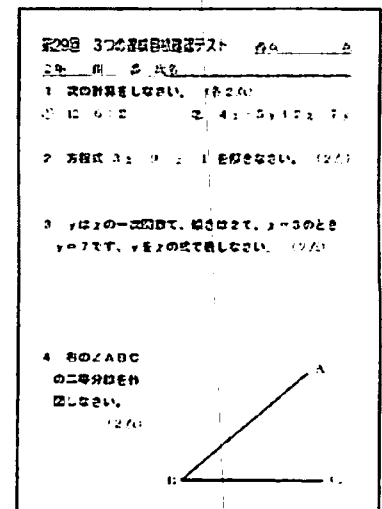
【ねらい】基礎・基本の定着を図り、以後の学習の基盤を作る。

【方法】1回5問の小テスト(図8)を、授業のはじめに毎回実施し、すぐに答え合わせをする。4点以下の生徒は、昼休みや放課後を利用して補充学習を行う。

イ 百マス計算の実施

【ねらい】計算力を高めるとともに、集中力を養う。

【方法】毎時間確認テストとともに実施する。



(図8) 確認テストの例

ウ 「できるかなシート」「できたかなシート」の活用
 【ねらい】 「できるかなシート」で、何ができて何ができないのかを把握する。さらに、「できたかなシート」で学習の成果をチェックし、各自の課題を明確にする。

【方 法】 定期テスト（年5回）の約2週間前に実施し、テストの出題範囲にも含める。

※ シートのダウンロード

「川越市立教育研究所」ホームページに掲載

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1142835364497&SiteID=0&FP=search&RK=1233172267589>

エ 国語・数学・英語を中心とした基礎・基本の振り返り学習

【ねらい】 基礎・基本の復習をし、習熟を深め、定着の強化を図る。また、粘り強く学習した結果、自分もできるようになったという喜びを味わわせる。

【方 法】 あらゆる機会をとらえて、振り返り学習のプリント（図10）に取り組ませる。約3回に1回の割合で、その内容についての確認テストを実施し、合格できなかった者には合格できるまで、粘り強く補充学習を実施する。これらは、教科担当に限らず、学年職員全体で取り組む。

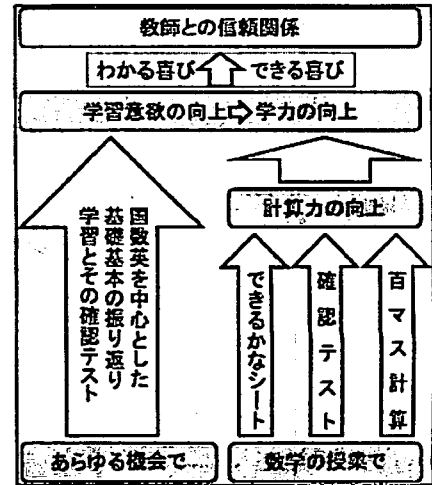
<考察>

「わからない」と言って投げ出す生徒が少なくなったことに加え、補充学習の後に「ありがとうございました」と言って帰って行く生徒が増えた。今後は、小学校で取り組んでいる「ノート指導」にも、学習の系統性を生かして取り組んでいきたい。

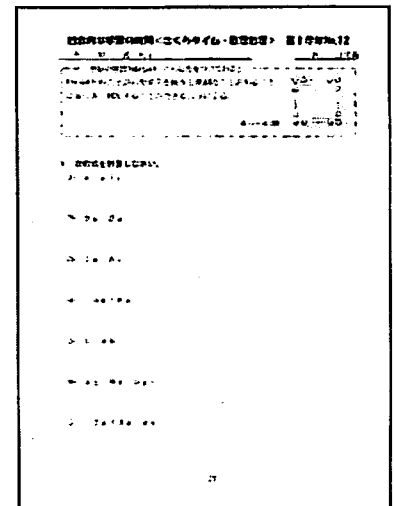
3 成果と課題

今回、小中学校の連携を踏まえた実践を行ったところ、数値だけでなく、児童・生徒の変容を見ることができた。連絡の取り方などに課題もあるが、小中学校で共通理解のし、学習指導を進めていくことの利点が見えてきた。この取組を進めていくことは、将来的に、教育に関する3つの達成目標の数値目標を達成するとともに、学習意欲をもち、困難に向かっていける児童・生徒が育っていく契機となると考える。

今後の課題として、小中学校の連携についてのさらなる方策や成果の検証方法について考えていきたい。



(図9) 振り返り学習の位置づけ



(図10) 振り返り学習プリントの例

(3) 体力部会

1 現状と課題

子どもたちの体力向上に役立つ資料集（CD）として川越市で作成した「体力向上支援ツール」（動画集、体力カード、トレーニングメニューなど）が各学校に配布されている。しかし、「体力向上支援ツール」の価値や有効性について、職員が十分な認識をしていないため、授業でほとんど活用されていなかった。

そこで、「体力向上支援ツール」の有効性を広め、授業や家庭での体力向上に役立ててもらえるようにしたいと考えた。

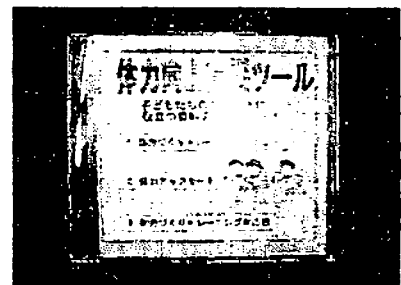
まず、本研究部員在籍の3校（2校小学校、1校中学校）で、新体力テストの分析を行うとともに、「体力向上支援ツール」の活用を試みた。3校の新体力テスト結果の考察によると、平均値は市・県平均との差はあるものの大きな数値の差は見られない。しかし、個人に焦点をあてると運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向を示す数値が顕著に見られた。中でも「立ち幅跳び」「50m走」の種目においては、低下傾向が見られた。

そこで、「体力向上支援ツール」を活用し、効果的な補強運動について検討した。また、家庭や学校全体での取組についても考えていくこととした。

2 課題解決の方策

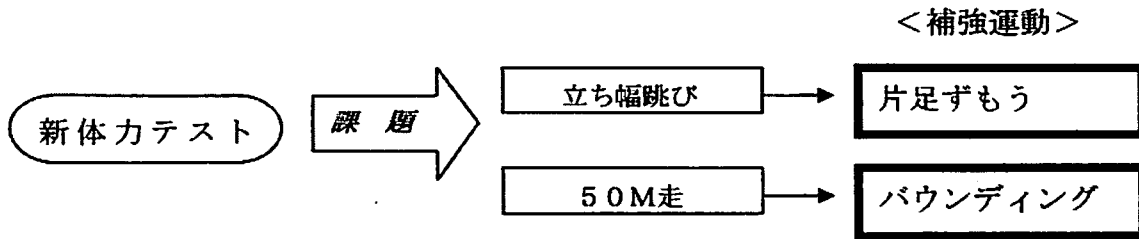
(1) 取組の概要

- ① 「体力向上支援ツール」の活用状況について
 - ・職員に「体力向上支援ツール」の活用状況を聞き、傾向をとらえる。
- ② 「体力向上支援ツール」の活用例について
 - ・新体力テストの結果から補強運動を提案する。
 - ・体育朝会で紹介する。
 - ・「体力向上支援ツール」の内容を紹介する。
 - ・年間指導計画への位置づけをする。
- ③ 職員への啓発について
 - ・掲示により紹介をする。
- ④ 家庭との連携について
 - ・「体力向上支援ツール」にある体力アップカードを活用する。



(2) 具体的実践事例 (「体力向上支援ツール」の活用例について)

① 新体カテスト結果からの補強運動の設定



※ 片足ずもう・・・瞬発力・調整力・スピードを養う

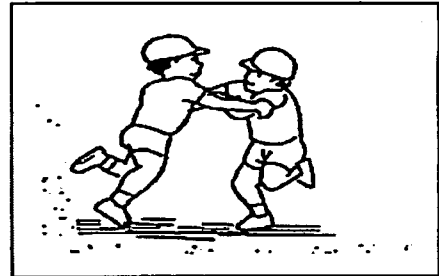
※ バウンディング・・・瞬発力・筋力(全身・脚)・スピードを養う

② 補強運動の仕方

<片足ずもう>

2人で向き合い、片足で体のバランスを上手にとって、相手を線の外に押し出す。

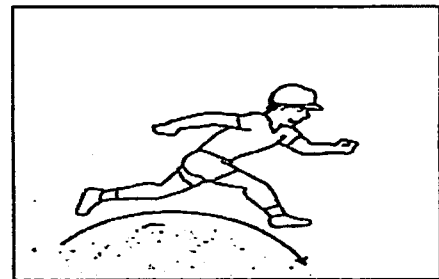
- ・衣服をつかんだり体をかわしたりしないで、まっすぐ押し出す
- ・線の外に押し出されたり足をついたりしたら負けとする。



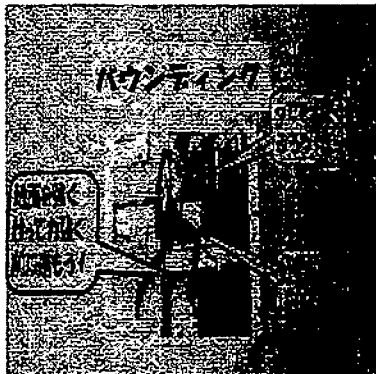
<バウンディング>

大股走で20mを何歩でいけるか。

- ・跳躍中(滞空時)は、つま先を下げず、踵から着地する。接地の時だけ力を入れる。
- ・動きを大きくして、接地と離地を早くすることに心がける。



③ 補強運動を紹介した掲示物

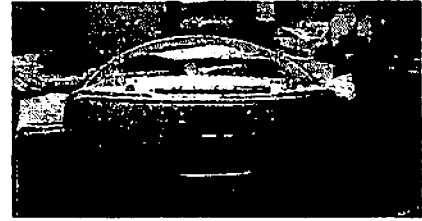


全校児童が見やすいように、体育館に掲示をした。

休み時間等にも子どもたちが自主的に、取り組めるように技のポイントも記入した。

④ 補強運動の一連の動作を録音しての取組

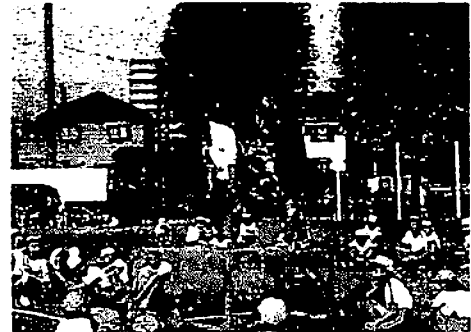
準備運動の流れをテープに録音した。補強運動も入れることで、確実に取り組むことができた。また、補強運動の仕方の説明資料を作成し、職員に配布した。



⑤ 体育朝会での取組

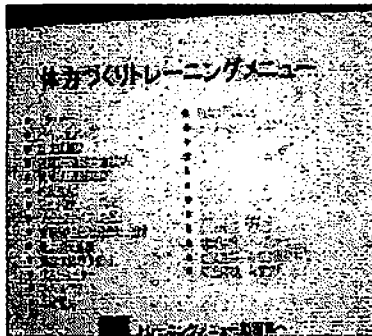
体育部の職員が新体力テストの考察をして、体力の補強運動の必要性を説明した。

補強運動でのポイントを全校で指導することにより学校全体で取り組む雰囲気作りをすることができた。



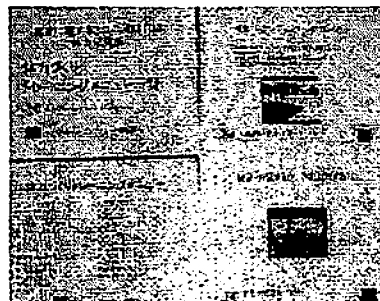
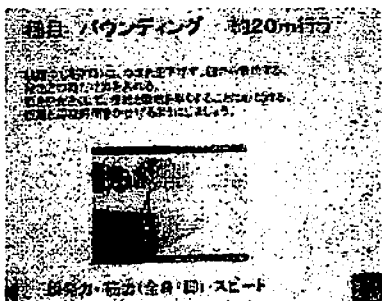
全校で紹介したところ、子どもたちが自分たちでゲーム化をして補強運動を行っていた。

⑥ 職員への啓発の取組



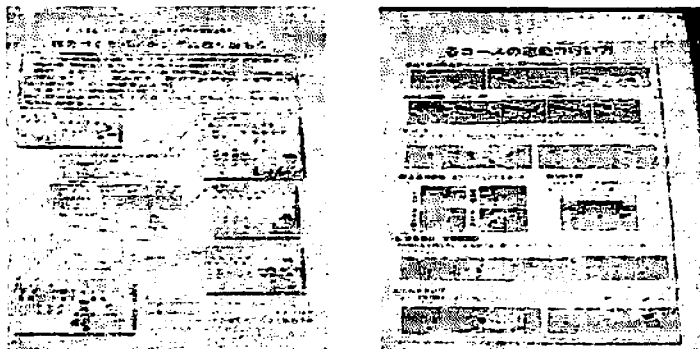
職員がよく目に触れる場所に「体力向上支援ツール」CDを置くようにした。

また、CDの一部を印刷して、どのような内容が示されているかを紹介した。

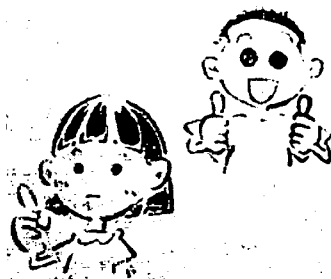


⑦ 家庭への啓発の取組

「体力アップカード」を活用し、一人一人のカードを作成することで、体力の優れている点や劣っている点を知らせることができた。また、補強運動の仕方も示してあるため、家庭で保護者と一緒に体力を高めることができた。



「体力アップカード」



自分が高めたい力をどのように補強するとよいかについて、写真入りで掲載されている。

3 成果と課題

(1) 成果

<児童>

- ・「体力向上支援ツール」の活用により、有効な補強運動をすることができた。
- ・体力アップカードの活用により、家庭でも継続して運動に取り組むことができた。

<職員>

- ・「体力向上支援ツール」について周知することができた。
- ・補強運動の掲示等をしたことにより、意図的に授業で活用したり実態に応じて補強運動をゲーム化して取り組んだりすることができた。

(2) 課題

<児童>

- ・同じことの繰り返しによる意欲の低下。
- ・自分の体力を考えた補強運動の自主的な選択。

<職員>

- ・「体力向上支援ツール」の自主的な活用。
- ・補強運動の継続した取組。

(3) まとめ

今後も「体力向上支援ツール」の価値や有効性を職員により広め、児童の体力の向上に向けて継続して活用できるようにしていきたい。また、家庭との連携を図った取組を通して、運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向を改善していきたい。

(4) 規律ある態度部会

1 現状と課題

下の一覧表は、平成19年度実施された「教育に関する3つの達成目標」規律ある態度に関する調査の川越市の小中学校の達成率の表である。

川越市「規律ある態度」達成目標(平成19年度)

区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1 登校時刻	91.8	92.4	96.2	95.8	95.1	95.4	95.5	95	94.9
2 授業開始時刻	88.1	90.5	95.3	93.9	94.5	93.8	95.6	94.5	95.5
3 靴そろえ	84.1	79.6	88.1	84.2	79.4	78.8	77.1	77.7	83.9
4 整理整頓	85.1	77.3	87.2	85.2	79.8	78.7	75.3	79.1	80.7
5 あいさつ	79.5	75.9	84.9	81	79.1	77.7	83.8	84.5	89.1
6 返事	91.5	86.8	94.3	88.6	85.4	83	81.6	82.3	88.7
7 ていねいな言葉づかい	85.8	78.6	89.2	83.8	70.4	62.8	76.5	78.7	86.4
8 やさしい言葉づかい	7.6	84.4	92	89.4	77.1	73.5	77	79.6	87.2
9 学習準備	70.8	56.1	72.3	67.9	76.5	72.7	81.7	79.6	84.4
10 話を聞き、発表する	90.6	86.8	85.7	81.1	78.6	74	63.2	64.3	73.3
11 集団の場での態度	84.6	82.9	91	87.6	86.8	84.9	82.6	83.5	85
12 掃除・美化活動	93.4	93.9	95.4	94.7	85.1	80.9	77.5	77.6	80.7

上の表の結果より、以下の現状が明らかになった。

- 「登校時刻を守る」「授業開始時刻を守る」「返事」「集団での態度」の4項目については、小学1年から中学3年までの全ての学年で達成率が80%を上回っている。
- 「靴をそろえる」「机やロッカーの整理整頓をする」「ていねいな言葉づかい」「授業の前に学習の準備を整える」「人の話を聞き、発表する」の項目については、達成率が80%に達していない学年が半数を超える。
- 「授業の前に学習の準備を整える」の項目は、小学校の全ての学年が80%を下回っているが、中学では達成率がどの学年もほぼ80%に達している。
- 達成状況を学年別に見ると、達成率が80%以上の項目数は、小学1年10項目、小学2年7項目、小学3年11項目、小学4年11項目、小学5年5項目、小学6年5項目、中学1年6項目、中学2年5項目、中学3年11項目であった。
- 小学校に関しては学年が上がるにつれて達成率が下がり、中学校に関しては学年が上がるにつれて達成率も上がる傾向にある。特に達成率が低い項目ほど、この傾向が強い。

以上のような現状から、規律ある態度部会の話し合いで、次のような課題が提起された。

- 小学5年から中学2年にかけて、達成率の谷間が形成されているが、この問題に関しての小中学校の連携は具体的にはほとんどされていない。
- 現在行われている小中連絡会では、それぞれの学校での生徒指導のあり方についてまで踏み込んだ話し合いがあまりされていない。

- 複数の小学校から生徒が入学する中学校では、それぞれの小学校によって生徒指導上のきまりなどが異なるので、共通指導の難しさという問題がある。

現在、生徒指導上の深刻な問題である不登校についても中1ギャップの解消が課題とされている。「規律ある態度」の達成率の県の目標である全項目80%以上の達成率を実現させるためには、小学校高学年から始まる谷間の解消が不可欠である。そのためには、小学校と中学校が連携し一貫性のある指導を行う必要がある。そこで本部会では、社会性を高めるスキル学習の小1～中3全学年での実施や小中連絡会のあり方の見直しなどを柱に課題解決に取り組むこととした。

2 課題解決の方策

(1) 取組の概要

① 小中横断的に全学年で取り組むスキル学習

小学校の高学年で最も低くなる「ていねいな言葉づかい」が、中学校で達成率が上がる理由を話し合う中で、中学校では社会体験プログラムなどの前に社会に出て恥ずかしくない言葉づかいができるようにスキル学習を実施しているからではないかという意見が出された。現代の子どもたちには一般的に社会性が不足していると言われる。小学校低学年での児童のトラブルも相手とうまくコミュニケーションがとれないことが原因の場合が多い。そこで、小中学校全ての学年であいさつや言葉づかいなど社会性を育てるためのスキル学習を実施していくことで課題解決を図ることとした。

② 小中連絡会での「規律ある態度」についての話し合い

従来の小中連絡会での話し合いは、小学校の卒業生の現状や中学校への新入生(小6)の特徴などについての話し合いになりがちであった。小中連絡会は異校種の教員が授業を相互に参観し、意見交換が出来る貴重な機会である。お互いの生徒指導のあり方を見直すと共に小中の教員の共通理解を図り、小中学校で一貫性のある指導を行うことで、中1ギャップや達成率の谷間の解消ができると考えた。そこで、授業参観の視点に「学習規律」を入れ、研究協議会での話し合いの柱の一つとすることにした。

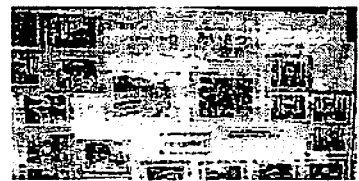
(2) 具体的実践事例

① 小中全学年で行う社会性を育てるスキル学習

<実践1> 「気持ちのよいあいさつ」(小学校全学年)

ア 方法(※2学期の始業式での生徒指導主任の話)

- (ア) 気持ちのよいあいさつとそうでないあいさつのモデルを教師がステージで演じる。感想をインタビュー形式で聞く。
- (イ) その場で2つのパターンを全児童が演じてみる。
- (ウ) 教室で、振り返りをする。
- (エ) 学校便りで、学校での取組を知らせる。



イ 事後指導

登校時のあいさつ運動であいさつがよくできた 「あいさつ名人」コーナー
児童を「あいさつ名人」に認定し、「あいさつ名人」コーナーに顔写真を掲示して、意欲化を図る。

※「あいさつ」に関する指導資料（掲示物等）はCDに収録

＜実践2＞「すなおにあやまろう」（小学校第4学年）

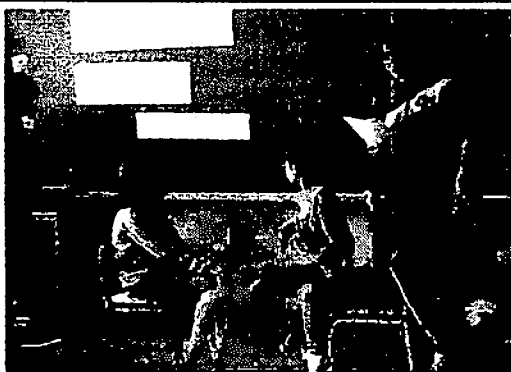
ア 授業の流れ

(ア) あやまり方には、「ズケズケ言う（攻撃的態度）」・「モジモジ、はっきりしない（非主張的表現）」・「素直に自分の気持ちを伝える（アサーティブな態度）」の3種類があることを知らせる。

(イ) 3人1組のグループを作り、3種類のあやまり方のロールプレイを役割を代えて行う。

(ウ) ロールプレイを行ってみて感じたことを、ワークシートにまとめる。

(エ) 素直なあやまり方についてわかったことや、感想を振り返りカードにまとめて話し合う。



イ 事後指導

学習したことが日常生活で生かされ、友達とのトラブルやけんかの後、素直にあやまれた子どもを認め、励ます。

＜実践3＞「あたたかい言葉かけ」（中学校第1学年）

（授業実践例）

場面	教師の指示及び指導内容／生徒の行動
インストラクション	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シート：2人の表情の違ううさ子ちゃんにそれぞれ2人のびよん太くんが何と言っているか語群から選ばせる。 ・言われる言葉によって、相手の気持ち（表情）が変わること及びあたたかい言葉をかけると元気になることを理解させる。 ・どんな言葉があたたかい言葉かけか、問題提起をする。
モデリング	<ul style="list-style-type: none"> ・いいところさがしカードを配布し、まず2人組であたたかい言葉かけはどうすればいいか考えさせ、発表させる。 ・発表後、どういう言葉かけがあたたかい感じをもったか発表させる。 ・あたたかい言葉かけとは、どういうものか確認する。
リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> ・3人グループで、自分以外の生徒のいいところさがしカードを作成する。 ・グループごとに実際にあたたかい言葉かけをやる。 ・その際一人は、その活動を評価してあげる。 ・グループごとの活動後、代表が全体で発表する。
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを用いて、今日の学習を振り返る。

＜実践4＞「しっかりと話を聴く力を身に付ける」（中学校第2学年）

（授業実践例）

場面	教師の指示及び指導内容／生徒の行動
インストラクション	<p>(1) ウォーミングアップとしてアイスブレイキングゲームを行う。 《本日のねらい》人の話を聴くと、どんないいことがあるのか考える。</p>

モデリング	<p>(2) ロールプレイを見て、聴き方について考える。 「相手の話をしっかりと聴くためには、どんなことに気を付けたらいいのだろう。」</p> <p>① 2つのモデリングを見る。 ② 話し役が感想を述べる。 ③ 聴き方の3つのポイントを確認する。 A：体を向ける B：話す人を見る C：相づちを打つ</p>
リハーサル	<p>(3) 実際にロールプレイをして練習する。</p> <p>① 3人組になって聴き方を練習する。 ② 観察者は1回目と2回目でどちらのほうが雰囲気良かったかを確認する。 ③ 話し手はどちらのほうが話しやすかったかを確認する。 ④ 相手を変えて練習する</p>
フィードバック	<p>(4) 今回の活動の振り返りを行う。</p>

② 小中連絡会での「規律ある態度」についての話し合い

小中連絡会での話し合いで、異校種の教師の目から見た学習規律などの生徒指導上の課題について話し合いを行った。日頃気付かず見過ごしがちな問題についても意見が出され、活発な話し合いとなった。その中で次のような意見が出された。

- ・あいさつや言葉づかいについては、継続的に小中学校で連携した指導をする必要がある。
- ・時間を守ることにについては、小学校ではノーチャイムで授業開始前に着席できているので、中学校でもその良い生活習慣を継続できるように指導していく。
- ・小学校では、発達段階に応じてきめ細かな指導が行われているが、中学校ではやや大人扱いをした対応となる傾向があり、見直す必要がある。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・全学年でスキル学習を実施したことで、「言葉づかい」や「あいさつ」についての児童生徒の意識の向上が図られた。実際に小学校高学年の検証結果で「言葉づかい」の項目で達成率80%を超えることができた。
- ・小中連絡会で毎回「規律ある態度」や生徒指導のあり方について話し合うことで、小中で一貫性のある指導を行うことの重要性への認識と共通理解を深めることができた。

(2) 課題

- ・出身小学校によって、「規律ある態度」に関して指導が異なるとの指摘があった。今後は、各小学校間でも生徒指導のあり方について検討する場を持つことが必要である。



社会体験の中学生もあいさつ運動に参加

小学校外国語活動研究委員会

1 研究の概要

(1) 設置の背景

平成20年3月に学習指導要領が告示され、6月には学習指導要領の改訂に伴う移行措置についての省令及び告示が公示された。小学校における外国語活動については、平成21年度から第5・6学年で総合的な学習の時間を週1コマまで外国語活動に充てることが可能になった。

平成23年度からの小学校学習指導要領の全面実施に向けて、川越市としては、平成21年度から、全小学校の第5・6学年で外国語活動が実施できるように、指導計画や学習指導案、教材等を作成し、準備を進めていくことが求められている。

(2) 研究内容

文部科学省で作成し配布された「英語ノート」を活用し、川越市内の共通教材として、担任の先生とAETがチームティーチングで授業を実施できるように、第5・6年生各35時間、計70時間分の「英語ノート」の年間指導計画、学習指導案、教材等を作成する。

(3) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成20年7月2日(水)	教育研究所	・ 委嘱書交付 ・ 趣旨説明 ・ 役割分担
8月5日(火)	教育研究所	・ 年間指導計画、学習指導案原稿の検討
10月15日(水)	教育研究所	・ 年間指導計画、学習指導案原稿の検討
11月26日(水)	教育研究所	・ 年間指導計画、学習指導案原稿の検討

2 研究の取組

(1) 英語活動年間指導計画 (小学校5学年)

「英語ノート」を活用した英語活動 5年生年間指導計画例

単元	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
L1 Hello 「世界のこんにちは」を知ろう (3)	L2 I'm happy. ジェスチャーをしよう (3)	L3 How many 数で遊ぼう Let's Enjoy 1 (6)		L4 I like apples. 自己紹介をしよう (3)	L5 I don't like blue. いろいろな国の衣装を知ろう (4)	L6 What do you want? 外来語を知ろう Let's Enjoy 2 (7)		L7 What's this? クイズ大会をしよう (3)	L8 I study Japanese. 時間割をつくらう (3)	L9 What would you like? ランチメニューを作ろう (Let's Enjoy 3)	
活動のねらい	1. 世界の挨拶を知る 2. 挨拶のマナーを知る、自分の名前を言う 3. 友達と挨拶し、名刺を交換する	1. 感情や様子を表す言葉を知りジェスチャーをする 2. ジェスチャーを交えて思いを伝える 3. ジェスチャーを交え進んで挨拶する 4. 感情や様子を伝達する	1. 様々なジェスチャーを知る 1から10迄の数字を英語で言う 2. 世界の様々なジェスチャーを理解する 1から20までの数字を英語で言う 3. 数を尋ねたり、1から20までの数字を英語で言う 4. 数を扱ったゲームを友達と行う	1. 好き嫌いについて聞き取る 2. 自分の好き嫌いを相手に伝える 3. 友達に好き嫌いを尋ねる 4. 自分の好きなものを含めて、自己紹介する	1. 様々な衣服の言い方を知る 2. 衣服を買うときの表現を知る 3. 好みをはっきり言う、買い物客に声を掛ける 4. 自分の衣服について	1. 外来語とその由来の語との発音の違いに気付き、注意して発音する 2. 相手に尋ねられた際、自分の欲しいものを正しく伝える 3. 欲しいものを尋ねたり要求したりして友達のフルーツパフェを作る 4. 作ったフルーツパフェを紹介する	1. 英語と日本語の違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く 2. What's this? を使って、尋ねたり答えたりする。 3. クイズ大会を楽しむ	1. 外国の小学校の学習内容や教科の言い方を知る 2. 教科名や曜日を扱ったゲームを行う 3. 自分の時間割を伝える 4. グループで作成した時間割を発表する	1. 日本と外国の食事の違いについて知る 2. 食べ物や料理を表す語を知る 3. 丁寧な表現で尋ねたり、欲しいものを伝える 4. グループで作成したスペシャルランチを紹介する		
題材・活動	(1) みんなとあいさつしよう (2) Chant ♪Hello Chant (3) キーワードゲーム (4) 名刺づくり交換	(1) 表情を見てどんな気持か当てよう (2) Let's Sing ♪Hello Song (3) ジェスチャーゲーム (4) あいさつをして様々な感情や様子を知ろう	(1) いろいろな言葉で「じゃんけん」をしよう (2) 数の言い方 (3) Let's sing ♪Ten Steps (4) ピラミッド・ゲーム (5) ビンゴゲーム (6) スネークスアンドラダーズゲーム	(7) 数字ピラミッドゲーム Let's Enjoy 1 (1) Let's sing ♪Ileud, Shoulders, Knees and Toes (2) サイモン・セズ・ゲーム	(1) 誰が何を好きか (2) 聞き取りカルタ (3) Chant ♪Do you like apples? (4) 好ききらい (5) 友達に好きなものを聞いてみよう (6) 名前や好きなものを言って自己紹介しよう	(1) Chant ♪Do you have a cap? (2) どのような服を着てみたいかを考えよう (3) 買い物をする (4) 自分の衣服についてスピーチしよう	(1) 身近な外来語を知ろう (2) Chant ♪What do you want? (3) どの国からきた食べ物か考えよう (4) 自分のオリジナルフルーツパフェを紹介しよう (5) フルーツバスケット	Let's Enjoy 2 かくれている動物をさがしてみよう	(1) Chant ♪What's this? (2) 水族館の生き物の漢字 (3) 生き物の数 (4) 教室にあるものを使って当てよう (5) シルエットクイズ (6) ブラックボックスクイズ	(1) どの教科か当てよう (2) Let's sing ♪Sunday, Monday, Tuesday (3) 時間割を完成しよう (4) 自分たちの時間割を作り発表しよう (5) ビンゴゲーム	(1) 朝ご飯に何を食べるか絵を描こう (2) この国の朝ご飯か (3) ビンゴゲーム (4) Let's Chant What would you like? (5) ランチセットをつくろう Let's Enjoy 3 英語コミュニケーションすごろく
使用表現	Hello. What's your name? My name is Ken. Nice to meet you.	How are you? I'm happy.	How many? Five.	Do you like apples? Yes, I do. / No, I don't. I like bananas Thank you.	I don't like blue.	What do you want? Melon, Please.		What's this? It's a pencil	I study Japanese.	What would you like? I'd like juice.	
教具等	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 名刺カード、絵、写真等	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 表情を表す絵カード等	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 数字カード 世界地図	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 数字カード 身体絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 果物絵カード スポーツ絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 衣服絵カード 色絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 果物絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 動物絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 魚絵カード 時間割表 教科絵カード	CDプレイヤー CD (歌、チャンツ) 食事絵カード ビンゴゲーム すごろく	

(2) 英語活動年間指導計画 (小学校6学年)

「英語ノート」を活用した英語活動 6年生年間指導計画例

川越市立教育研究所

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元	L1 That's right. アルファベットで遊ぼう (3)	L2 Aa Bb Cc いろいろな文字があることを知ろう (4)	L3 When is your birthday? カレンダーを作ろう Let's Enjoy 1 (5)		L4 I can swim. できることを紹介しよう (3)	L5 Turn right 道案内をしよう (4)	L6 I want to go to Italy. 行ってみたい国を紹介しよう Let's Enjoy 2 (7)		L7 What time do you get up? 自分の一日を紹介しよう (3)	L8 Please help me. オリジナルの劇をつくろう (3)	L9 I want to be a teacher. 将来の夢を紹介しよう Let's Enjoy 3 (3)
活動のねらい	1. アルファベットの読み方を知る 2. 大文字の読み方を認識する 3. 自ら大文字を読む	1. アルファベットの小文字を知る / 2 1 以上の数字を言う 2. 小文字を認識する 3. 小文字を読む 4. 大文字と小文字を書き写す	1. 日本の行事や特徴を確認し、行事の行われる月の言い方を知る 2. 自分の誕生月を言う 3. 誕生月について、まとまった話を聞き、概要を理解する 4. 自分の友達の誕生日について尋ねたり、答えたりする		1. 何ができ、何ができないかを理解する 2. 自分ができること、できないことを伝える 3. 何ができるかを友達と問答する 4. 自分のできることを発表する	1. 様々な建物の言い方を理解する 2. 方向や動きを指示する表現を理解する 3. 相手に目的の場所を教える 4. 目的地への道案内をする	1. 世界には様々な英語があることを知る 2. 行きたい国とその理由について聞き、概要を理解する 3. 行きたい国を尋ねたり答えたりする 4. 行きたい国を理由とともに言ったり、相手の行きたい国とその理由を理解したりする		1. 時差について理解し、時間についての表現を知る 2. 先生の一日の生活について概要を理解する 3. 生活表を完成する 4. 自分の一日を紹介する	1. 世界の民話や物語に興味をもって聞く 2. オリジナルな「大きな株」をつくる 3. オリジナルな物語を創作し、劇の練習をする 4. オリジナルな物語の発表	1. 様々な職業の言い方を知る 2. 職業について話されていることを理解する 3. 将来つきたい職業について尋ねたり答えたりする
題材・活動	(1) アルファベットの文字を見つけよう (2) ♪The Alphabet Song (3) アルファベットカルタ (4) ミッションゲーム (5) アルファベットパズル	(1) 動物がどのくらいいるか教えよう (2) ♪Thirty, Forty..., One Hundred (3) 数字ブロックの色塗り (4) アルファベットの大文字と小文字 (5) アルファベットの表示紹介 (6) カートゲーム	(1) 年中行事と月の関係 (2) Chant ♪Twelve Months (3) 自分や家族の誕生日を言ってみよう (4) 名前と誕生日を書こう Let's Enjoy 1 (5) Let's sing ♪Happy Birthday to you (6) 誕生日カードをつくってみよう	(1) どの動物のことか当てよう (2) Chant ♪I can swim. (3) ジェスチャーを見て、何の動作かあてよう (4) 友達に何ができるかインタビューしよう (5) ショー・アンド・テル	(1) おはじきゲーム (2) Chant ♪Where is the station? (3) サイモン・セズ・ゲーム (4) 絵カードを置いて地図を完成させよう (5) 道案内をしよう	(1) 自己紹介を聞いて国名を知ろう (2) Chant ♪I want to go to Italy (3) ビンゴゲーム (4) 行きたい国とその理由 (5) Swatting ゲーム (5) 自分が行ってみたい国について、その理由と国旗とを絵にかいて紹介しよう。 Let's Enjoy 2 世界遺産を知ろう	(1) 1から60までの数字 (2) Chant ♪My daily Routine (3) 時計に短針・長針を書く (4) 先生の一日の生活 (5) おはじきゲーム、ジェスチャーゲーム (6) 一日の生活	(1) 物語を聞こう (2) 登場人物に人物絵カードを置こう (3) Chant ♪Yo-Heave-ho! (4) 自分たちで物語をつくろう (5) 物語を演じよう	(1) 自己紹介を聞いてみよう (2) ビンゴ・ゲーム (3) Chant ♪When I Grow Up (4) 3人の紹介を聞こう (5) インタビューゲーム (6) いろいろな職業の言い方		
使用表	What's this? It's ~ A ~ Z 等	What's this? a ~ z 等	When is your birthday? My birthday is March 3rd.		Can you swim? Yes, I can. NO, I can't I can swim. I can't swim.	Where is the flower shop? Go straight. Turn right/left. Stop.	I want to go to Italy. Let's go.		What time do you get up? At 7:00. I go to bed.	Please help me. What's the matter?	What do you want to be? I want to be a teacher.
教具等	CDプレイヤー アルファベットカード (1枚)	CDプレイヤー アルファベットカード (1枚) 数字ブロック	CDプレイヤー 月絵カード 誕生日カード		CDプレイヤー 紹介ポスター 紹介時に使う実物	CDプレイヤー おはじき 建物絵カード	CDプレイヤー 世界地図 国旗絵カード	CDプレイヤー 世界地図 時計絵カード チャップ絵カード	CDプレイヤー 登場人物絵カード	CDプレイヤー 職業絵カード 巻末絵カード	

小

(3) 英語活動指導計画例 (小学校5学年)

1 教材名 Lesson 1 世界の「こんにちは」を知ろう ①

< 45分 >

2 目標 世界には、様々なあいさつがあることを知る。

3 展開 (※使用表現: What's your name?/My name is Ken./ Nice to meet you.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	英語アドバイザー (EA)	教材教具
5分	1 新しいEAの自己紹介を聞こう	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて日本語で説明する。 ・簡単な英語を使って自己紹介をやってみせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で簡単な自己紹介をする。 ・HRTと挨拶をかわし、示範を行う。 	世界地図
10分	2 英語で自己紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の練習をさせる ・EAと児童との橋渡しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの児童に名前を尋ねる。 	
		<p>H:What's your name? E:My name is ~. H:Nice to meet you. E:Nice to meet you,too.</p>		
5分	3 チャンツをしよう 【Let's Chant】 ♪Hello Chant♪	<ul style="list-style-type: none"> ・CD3 を聞かせ、自分の名前を入れてチャンツを行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTと役割分担し、チャンツをする。 	CD3
15分	4 世界の「こんにちは」を知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・CD 4 を聞いて、どの国の挨拶か考える。 ・絵をさして答える。 ・いろいろな言語で「こんにちは」を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の言語で知っている挨拶の言葉を探ねる。 ・CD4 を聞かせ、英語ノート p.4,5 のどのペアの子どもたちの挨拶か予想させる。 ・EAと実際に挨拶をしてみせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTと実際に挨拶をしてみせる。 	英語ノート p.4-5 CD4
8分	5 キー・ワード・ゲームをしよう 【Let's Play】	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方をデモンストレーションで示す。 EAは教師役、HRTは児童役を行う。 例) キーワード: Boa tarde. Hello. (E) → Hello. (H) → 全員2回手をたたく Jambo. (E) → Jambo. (H) → 全員2回手をたたく Boa tarde. (E) → Boa tarde. (H) → 握手 		
		<p>①児童は、ペアになり向かい合う。キーワードは、EAが出題する。 ②「世界の挨拶」の中から、EAが言った言葉を児童もくり返し発音する。その時、キーワードだったら、ペアと握手する。 ③キーワード以外の時は、発音した後、お互い2回手をたたく。</p>		
2分	6 ふりかえりとあいさつをしよう Thank you very much, ~ sensei. See you.	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を聞く。 ・学習の終わりの挨拶の言い方を練習させる。 ・大きな声で挨拶ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の終わりの挨拶をする。 See you. Good-bye. So-long. 	

5th Grade English Activity Teaching Plan

1 Topic: Lesson1 Let's Learn the World's Greetings①

2 Goal: To learn different greetings from around the world.

2 Procedure: (※Expression: What's your name?/My name is Ken./Nice to meet you.) <45min>

Activities	Students	HRT(Homeroom Teacher)	EA(English Advisor)	Notes
1 Introduction	Listen to the self introduction	<ul style="list-style-type: none"> Make a self-introduction with easy English. Explain in Japanese if it's needed. 	<ul style="list-style-type: none"> Make a self-introduction with easy English. Greet and demonstrate with HRT. 	World Map
2 Introduce yourself	Introduce yourself in English	<ul style="list-style-type: none"> Encourage students and help them make their own introduction <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">What's your name? My name is ~. Nice to meet you. Nice to meet you, too.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> Ask each student's name and greet. 	
3 Chanting	Chant ♪Hello Chant♪	<ul style="list-style-type: none"> Encourage students to listen to the CD and do chant with their name in it. 	<ul style="list-style-type: none"> Enjoy chant with students. 	CD3
4 World Greetings	Listen and greet	<ul style="list-style-type: none"> Encourage students to listen to the CD and greet. 	<ul style="list-style-type: none"> Demonstrate the world greetings. 	English Notebook p.4,5 CD4
5 Key Word Game	Play the game	<ul style="list-style-type: none"> Explain how to play the game and demonstrate it. EA: Teacher HRT: Student Ex) Key word: Boa tarde. E: Hello. → H: Hello. →Clap hands twice E: Jambo. → H: Jambo. →Clap hands twice E: Boa tarde.→ H:Boa tarde . →Shake hands 		
6 Closing	Review and Thank you very much, Mr./Ms.	<ul style="list-style-type: none"> Ask students how today's lesson was. Encourage students to close with a loud voice. 	<ul style="list-style-type: none"> Close with students . See you. Good-bye. So-long. 	

(4) 英語活動指導計画例 (小学校6学年)

1 教材名 Lesson 1 アルファベットで遊ぼう①

<45分>

2 目標 アルファベットの大文字に興味を持つ。

3 展開 (*使用表現: A~Zのアルファベットの文字。What's this? It's ~.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	英語アドバイザー (EA)	教材教具
4分	1 英語であいさつをしよう EA: Hello, how are you? C: I'm good/fine/OK/ hungry/sleepy.	・元気に明るく挨拶ができるように支援する。	・全体または個別に挨拶する。	
20分	2 A~Zを言おう 【Activity】 ① EAがHRTに“This is the letter A.”“Where is A in this picture?”と尋ね、HRTは“A”と言いながら、英語ノートのアルファベットの「A」を指差す。 ② 次に、EAが児童に同様に尋ね、児童が“A”と言いながら英語ノートの「A」を指差す。同様にB~Zを確認する。	・大文字アルファベット・カードを見せながらそれが英語ノートのどこにあるかを探ねる。 ・HRTは、机間巡視をしながら、合っている時は、 That's right. Very good. Great. などと言って褒める。 ・間違っている時は、 Sorry, it's not there. Close. などと言って励ます。		英語ノート p.4-5 巻末大文字 アルファベ ット・カー ド
5分	3 英語の歌を歌おう ♪ The Alphabet Song ♪ 【Let's Sing】	・英語のカードを見ながら歌うようにさせる。 ・楽しく元気に歌えるように一緒に歌う。	・1フレーズ手本を示す。 ・黒板のカードを指しながら児童と一緒に歌う。	CD-3
10分	4 文字当てゲームをしよう ① 代表児童を1名選び、その児童が指した文字を全員の児童で言う。 ② 次に、2名の代表児童を選ぶ。 ③ EAが“A”などと言う。 ④ 2名の代表児童が素早く黒板に貼ってあるカードをたたく。 【Let's Play】			はえたたき 大文字アル ファベッ ト・カー ド
2分	5 英語の歌を歌おう ♪ The Alphabet Song ♪ 【Let's Sing】	・楽しく元気に歌えるように支援する。	・児童と一緒に歌う。	CD-3
4分	6 今日の学習を振り返ろう 7 挨拶をしよう Thank you very much, ~ sennsei. See you.	・楽しかったことなどを聞く。 ・英語を使おうとする態度面について評価する。 ・挨拶をし、大きな声で挨拶ができるように支援する。 Thank you. See you next time.	・全体に挨拶をする。	

6th Grade English Activity Teaching Plan

- 1 **Topic:** Lesson 1 That's right.①
 2 **Goal:** Gain interest in the alphabet
 3 **Procedure:** (※ Expression: A~Z, / What's this? / It's ~ .)

Activities	Students	HRT(Homeroom Teacher)	EA (English Advisor)	Notes
1 Greetings EA : Hello. How are you? C : I'm good / fine / OK / hungry / sleepy.	Listen and speak	*Encourage a cheerfull greeting from the students	*Demonstrate the correct pronunciation of the greetings.	
2 Finding the Alphabet 【Activity】	Listen and point to the letters of the alphabet.	*Show the Alphabet cards and ask students where the letter is in the 'English Notebook.' ① EA says to the HRT , " This is the letter A ." " Where is A in this picture ?" HRT says "A" and points to the letter "A" in the 'English Notebook.' ② EA asks the students , the students say "A" and point to the letter in the English Notebook. Do for B-Z.	*HRT praises students: "That's right."" Very good." " Great." and encourages them , If wrong, say things like "Sorry, it's not there." or "Close".	English Notebook p. 4-5 Alphabet Cards
3 Singing ♪ The Alphabet Song ♪ 【Let' sing】	Listen and sing the song	*Have the students look at the cards *Encourage the students to sing cheerfully.	*Give the students an example. *Sing along with the students.	CD 3
4 Game 【Let's play】		① One student points to a letter and all the students read it. ② Choose two students. ③ The EA says one letter of the alphabet. ④ The two students try to swat the alphabet card on the blackboard as fast as possible.		Swatters Alphabet cards
5 Singing ♪ The Alphabet Song ♪ 【Let's sing】	Listen and sing the song..	*Encourage the students to sing cheerfully	*Sing along with the students	
6 Closing Thank you very much. See you.	Listen and answer.	*Ask students about the lesson. *Comment about their attitude *Encourage students to close cheerfully. Thank you. See you next time.	*Close with the students	